

授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画（シラバス又は年間授業計画の概要）

※「教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報」を含む

# 美容芸術学科シラバス

授業科目	関係法規・制度 Sanitation Laws and Systems						
開講年次	2年前期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	川島 進一						
テキスト	『関係法規・制度』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	美容師の資格は法律により規定され、美容師でなければ美容の業を行うことはできない。このため美容師に必要な法知識を習得する必要がある。この科目では、法制度の概要からわが国の衛生行政について学ぶとともに、美容師法の要求する美容師・美容所についての規定を理解する。また、美容師について必要とされる美容師法以外の関係法規についても知識を深めることとする。						
授業概要	法制度の概要を理解したうえで、わが国の衛生行政のしくみ、美容師法・施行令・施行規則について理解を深めるとともに、美容業に関係する法律・制度について学習する。						
時間外学習							
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	法制度の概要	法の役割・法とは何か・法の実際					
3~4	衛生法規の概要	衛生法規の意義・分類・概観					
5~6	衛生行政の概要	国と地方の行政・衛生行政の意義と歴史・衛生行政の動向					
7~8	衛生行政の種類と行政機関	衛生行政のしくみ・保健所の役割と機構					
9~10	美容師法	美容師法の目的と歴史・美容師法の構成					
11~12	用語の定義	美容・美容師・美容所					
13~14	美容師	美容師養成制度・美容師試験・免許と登録					
15~16	美容師	管理美容師・業務に従事する美容師の義務					
17~18	美容所	美容所の開設					
19~20	美容所	美容所開設者が講ずべき衛生措置・美容所以外での業務					
21~22	立入検査	立入検査・環境衛生監視員					
23~24	行政処分	行政処分・行政処分手続き・審査請求・異議申立て					
25~26	罰則	罰則					
27~28	関係法規	生衛法・地域保健法					
29~30	関係法規・まとめ	感染症法・労働基準法・消費者基本法・美容師法の課題					
到達目標	わが国の法制度、衛生行政、美容師法、関係法規を理解することにより、美容師が持つ社会的責任の重さを理解し、さらに顧客に対し責任を持って美容の業を行うという職業意識を育成していく。						
評価方法	1. 期末試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業受講の熱心さ						
履修上の 注 意	授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。						
参考文献							

授業科目	衛生管理技術 Sanitation Administration						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	柏戸 奈苗						
テキスト	『衛生管理』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	我々の生活環境には、無数の微生物が棲息している。これらの微生物が常に恐ろしい感染症の原因となるわけではないが、環境状態によっては重い感染症の発病に結びつくことがある。これらの微生物を取り除く方法には滅菌・消毒の理論と実践を総合的に理解させる。						
授業概要	衛生管理技術では、物理的な方法（熱・紫外線）、化学的方法（種々の消毒薬）の基本的な手技を体得することを目的とする。						
時間外学習							
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	消毒法概論	メスピペット・メスシリンダー等の使い方					
3~4	濃度方法	濃度の概説（希釈、濃度の表し方）					
5~6	消毒薬	アルコール系					
7~8		逆性石鹼（塩化ベンザルコニウム）					
9~10		グルコン酸クロルヘキシジン					
11~12		両性界面活性剤					
13~14		次亜塩素酸ナトリウム					
15~16		その他の消毒薬					
17~18		物理的消毒	紫外線消毒器等				
19~20	顕微鏡	顕微鏡の操作・細菌の観察					
21~22	感染症対策	感染症予防					
23~24							
25~26	国家試験対策	試験対策					
27~28							
29~30	試験	試験					
到達目標	美容業を行うための滅菌・消毒について必要な能力を養う。						
評価方法	講義毎にレポートの提出を行い、レポート・試験により総合評価する						
履修上の 注 意	1. 白衣着用のことがある 2. 法定課目に含まれる為、欠席が多いと不可になる						
参考文献							

授業科目	公衆衛生 Public Health						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	勅使川原 洋						
テキスト	『衛生管理』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	公衆衛生学を通し、人間の美と健康に関わる職業人として、人々の健康づくりに寄与出来る知識を学び(特に美容師と公衆衛生の関係を学ぶ)、健康への理解を深める。						
授業概要	公衆衛生の歴史・現状を学習し将来の方向性を考察する、美容師の保健についても学習する。						
時間外学習							
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1~2	健康	健康と公衆衛生					
3~4	衛生学	衛生学、公衆衛生の歴史と意義					
5~6	公衆衛生の分野	健康の保持・増進と休息、美容師と保健所					
7~8	法律の解釈	関連法と条例の解釈と変遷					
9~10	公衆衛生行政	衛生法規と行政機構、WHO					
11~12	栄養と食物	栄養素と役割					
13~14	栄養と食物	各年齢の栄養摂取量と基礎代謝					
15~16	食品衛生	食中毒の種類と原因と予防、美容師の消毒					
17~18	衛生統計	平均寿命、生命表、疫学					
19~20	母子保健	母子保健と学校保健					
21~22	成人老人保健	生活習慣病、産業保健、老人保健					
23~24	環境衛生	採光と照明、飲料水、公害					
25~26	環境衛生	水質汚濁、大気汚染、廃棄物、地球温暖化					
27~28	精神保健	精神保健、障害者自立支援、美容所の環境衛生					
29~30	まとめ						
到達目標	公衆衛生の現状と方向性を考えられる力を養う。						
評価方法	試験, 受講態度および出席状況等を総合的に考慮して評価する。						
履修上の 注 意	なし						
参考文献	『国民衛生の動向』 厚生統計協会 編 厚生統計協会 2009 『健康科学と公衆衛生学』 堀内俊孝 他著 桜門書房 2010 講義の時に必要に応じて指示する。						

授業科目	感染症 Sanitation Administration						
開講年次	2年前期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	勅使川原 洋						
テキスト	『衛生管理』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	感染症の原因である微生物の構造・生態を理解することにより、感染症罹患者およびその生活環境に対して適切な対処方法を選択出来るようにする。加えて、新興感染症・再興感染症に対しても十分な知識の理解を深める。これらの理解に基づき、より安全・適切な接客方法を考えられるようにする。						
授業概要	微生物の種類・構造・特徴・生態について学ぶ。 感染症の機序・流行様式・防疫について学ぶ。 感染症予防の方法を学ぶ。 実際に自分自身で出来る予防方法を考察する。						
時間外学習	各項目の現状を予習し、復習としては、予習と授業で得た知識と考え方を整理しグループ化し、それぞれにタイトルを付ける。それをパーツとして自分なりの考察力により組み上げて、一連のストーリーを完成させる。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	感染症予防法規	感染症法					
3~4	感染症の基礎知識（1）	感染症の種類、生物種による微生物の寄生・感染					
5~6	感染症の基礎知識（2）	微生物の種類					
7~8	感染症の基礎知識（3）	微生物の発育と発育曲線					
9~10	感染症の基礎知識（4）	微生物の生態					
11~12	感染症の基礎知識（5）	微生物の増殖・分裂					
13~14	疫学	疫学方法と基本的な疫学的な考え方					
15~16	感染症予防	感染症の感染要因					
17~18	感染症予防方法	防疫の原則・実際					
19~20	予防接種	感受性と予防接種					
21~22	消化器系感染症	細菌性赤痢					
23~24	呼吸器系感染症	結核					
25~26	性行為感染症	エイズ、クラミジア、淋病					
27~28	新興感染症	ラッサ熱、エボラ出血熱、BSE					
29~30	美容所における感染症の実際	美容所の感染症予防					
到達目標	より安全・適切な感染症予防方法を自分自身で選択出来る。 感染症を客観的・科学的に理解出来る。						
評価方法	試験、受講態度および出席状況等を総合的に考慮して評価する。						
履修上の 注 意							
参考文献	『国民衛生の動向』 厚生統計協会 編 厚生統計協会 2009 『健康科学と公衆衛生学』 堀内俊孝 他著 桜門書房 2010 講義の時に必要に応じて指示する。						

授業科目	皮膚科学 I Dermatology I						
開講年次	2 年前期	単位	1 単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	田代 和治						
テキスト	『理容美容保健』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	皮膚は身体の表面を覆い、絶えず外部環境からの刺激にさらされている。そのため、内部諸臓器の保護のみでなく、外界からの情報の感知、身体適応など重要で多彩な役割を果たしている。学生が将来美容界において指導的な役割を担うため、美と健康に関わる皮膚の科学的な正しい知識と技術を習得し、これを活用し実践する能力を身につける。						
授業概要	1. テキストに準拠し、皮膚およびその附属器官の構造、皮膚の循環系と血管の解剖と生理、皮膚と附属器官の一般的生理機能、皮膚と附属器官の保健ならびに疾病の概要等について学習する。 Video 映像等を駆使して視覚的に理解を深める。 2. 「皮膚科学」の基礎的事項について、講師作成練習問題（小テスト用）を7回以上行い60点以上得点出来る様、国家試験対策の一助とする。						
時間外学習	準備学習、予習、復習について ①美容師国家試験の受験科目であることを良く理解すること。 ②テキスト（講義で使用する教科書）をよく読んで、理解できないところをチェックしておくこと。 （本文だけでなく図、表、写真なども含む。） ③授業中の質問も用意しておくこと。 ④講師作成の「練習問題」や「学習のまとめ」をよく読んで理解し、自分が間違えた問題についてはどうして間違えたのかテキストや講義内容により、しっかり検討しておくこと。とくに重要と思われるキーワードは必ず理解し、確実に覚えること。						
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1~2	I 皮膚の構造（1）	①皮膚の表面 ②皮膚の断面					
3~4	I 皮膚の構造（2）	③表皮 ④表皮と真皮の境					
5~6	I 皮膚の構造（3）	⑤真皮 ⑥皮下組織 ⑦皮膚の部位差ならびに人種差					
7~8	II 皮膚附属器官の構造（1）	①毛（毛の構造、型と生長周期、型の変化、毛の生長 等）					
9~10	II 皮膚附属器官の構造（2）	①毛（続き）（毛の性状、立毛筋 等）					
11~12	II 皮膚附属器官の構造（3）	②脂腺（皮脂腺） ③汗腺 ④爪					
13~14	III 皮膚の循環系と神経系	①皮膚の血管 ②皮膚のリンパ管 ③皮膚の神経					
15~16	IV 皮膚と附属器官の生理機能（1）	①対外保護作用 ②体温調節機能 ③知覚作用と皮膚反射					
17~18	IV 皮膚と附属器官の生理機能（2）	④分泌排泄作用 ⑤呼吸作用 ⑥吸収作用 ⑦貯蔵作用					
19~20	IV 皮膚と附属器官の生理機能（3）	⑧免疫・解毒・排除作用 ⑨ビタミンD形成作用 ⑩表情作用 ⑪再生作用 ⑫毛のはたらき ⑬爪のはたらき					
21~22	V 皮膚と附属器官の保健（1）	①皮膚と全身状態 ②皮膚と精神					
23~24	V 皮膚と附属器官の保健（2）	③皮膚と栄養 ④皮膚とし好品					
25~26	V 皮膚と附属器官の保健（3）	⑤皮膚と環境 ⑥皮膚と体内病変					
27~28	前期学習のまとめ	質疑応答、演習試験その他					
29~30	期末テスト						
到達目標	美容師として、業務遂行上具備すべき知識と技能を修得する。						
評価方法	1. 講師作成の「練習問題」や資料等は、前期学習のまとめのときも使用し、学生の習得度の参考にする。 2. 期末試験は国家試験の形式に準拠し、多肢選択式等で実施する。						
履修上の 注 意	1. 教員との対話を重視し、質疑応答を盛んにする。 2. 真摯な受講態度を育成する。						
参考文献	初回授業において、「皮膚科学 I, II」の参考文献一覧表を配布する。 その他、講義の時に必要であれば指示する。						

授業科目	皮膚科学Ⅱ DermatologyⅡ						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	前原 信敏						
テキスト	『理容美容保健』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	皮膚は身体の表面を覆い、絶えず外部環境からの刺激にさらされている。そのため、内部諸臓器の保護のみでなく、外界からの情報の感知、身体適応など重要で多彩な役割を果たしている。学生が将来美容界において指導的な役割を担うため、美と健康に関わる皮膚の科学的な正しい知識と技術を習得し、これを活用し実践する能力を身につける。						
授業概要	テキストに準拠し、皮膚およびその附属器官の構造、皮膚の循環系と血管の解剖と生理、皮膚と附属器官の一般的生理機能、皮膚と附属器官の保健、皮膚と附属器官の疾病の概要等について学習する。 映像等を使用して視覚的に理解を深める。						
時間外学習	毎回記述式の小テストを行うので、そのための予習をするよう指導する。また、答えは採点して学生に返却する。解答例を配り、持ち帰ってよく検討するよう指導する。						
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1~2	V 皮膚と附属器官の保健 (5)	①皮膚の保護と手入れ					
3~4	V 皮膚と附属器官の保健 (6)	②毛の保護と手入れ ③爪の保護と手入れ ④リラックスによるスキンケア					
5~6	VI 皮膚と附属器官の疾患 (1)	①皮膚の異常とその種類					
7~8	VI 皮膚と附属器官の疾患 (2)	②皮膚疾患の原因 ③皮膚疾患の治療法					
9~10	VI 皮膚と附属器官の疾患 (3)	④皮膚炎と湿疹・薬疹・蕁麻疹					
11~12	VI 皮膚と附属器官の疾患 (4)						
13~14	VI 皮膚と附属器官の疾患 (5)	⑤口唇の疾患					
15~16	VI 皮膚と附属器官の疾患 (6)	⑥温熱・寒冷による皮膚障害 ⑦角化異常による皮膚障害					
17~18	VI 皮膚と附属器官の疾患 (7)	⑧色素異常による皮膚疾患 ⑨血管腫(アカアザ) ⑩下肢静脈瘤					
19~20	VI 皮膚と附属器官の疾患 (8)	⑪分泌異常による皮膚疾患					
21~22	VI 皮膚と附属器官の疾患 (9)	⑫化膿菌による皮膚疾患 ⑬ウイルスによる皮膚疾患					
23~24	VI 皮膚と附属器官の疾患 (10)	⑭真菌による皮膚疾患 ⑮動物による皮膚疾患 ⑯感染症の皮膚疾患の予防					
25~26	VI 皮膚と付属器官の疾患 (11)	⑰毛と爪の疾患					
27~28	VI 皮膚と付属器官の疾患 (12)	⑱皮膚の腫瘍					
29~30	後期学習のまとめ	質疑応答、演習試験その他					
到達目標	美容師として、業務遂行上具備すべき知識と技能を修得する。						
評価方法	出席状況、小テスト、期末テストを加味して総合的に評価する。						
履修上の 注 意	1. 教員との対話を重視し、質疑応答を盛んにする。 2. 真摯な受講態度を育成する。						
参考文献	『標準皮膚科学 第7版』 荒田次郎 監修 医学書院 2004 『美容のヒフ科学 改訂8版』 安田利顕 著 漆畑修 改訂 南山堂 2002 『化粧品・外用薬研究者のための皮膚科学』 宮地良樹 長沼雅子 編 文光堂 2005						

授業科目	人体の構造と機能 I Structure and Function of Human Body I						
開講年次	1 年後期	単位	1 単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	引地 学						
テキスト	『理容美容保健』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	生物体の構成は、生物の基本構成単位である細胞の集まりであるが、それらから構成されているそれぞれの器官・臓器の寄せ集めだけではない。それぞれの形態は、円盤状の血球や樹枝状の神経細胞などの形やそれ独特の機能に則した形をしており、それぞれの細胞が有機的に組み合って合理的な形を成している。美容・芸術を学ぶ者にとって、人体の構造や器官の構成を理解した上での健康な肌、皮膚を理解することは必須である。人のからだの器官や臓器とそれらの機能等を学び、次の生理学への理解の導入としても、美容科学の基礎知識を養う事を目標とする。						
授業概要	I：序論 ー健康な身体、身体各部の名称ー II：細胞と体液 III：骨格、筋、神経細胞 IV：神経と感覚器官のはたらき V：循環器官とそのはたらき VI：呼吸器官とそのはたらき						
時間外学習	美容師は、頭毛や皮膚・肌の保健・健康とそれらの美にたずさわる職業なので、一般の人以上に人体の構造や機能に精通していなければならない。当大学の学生にとって、解剖学（人体の構造と機能 I）ははじめての具体的な学問領域なので、時間外学習（予習、準備学習）が必須の条件である。以下、時間外学習の具体的な学習方法を指示する。 1) 受講に際しての履修要項（シラバス）に記してある当日の授業概要を読んでおき、何を学ぶか知っておく事。 2) シラバスには当日の授業計画とその内容が記されている。その概要を把握しておく事。 3) 解剖学あるいは生理学には多くの医学用語が使われている。学生諸氏にとってははじめて聞く言葉も多い。とくに覚えなければならない重要な言葉は何度も繰り返すのでノート等に記しておく事。 4) 講義を始める前に、前週の小テストの模範解答とそれの解説をすることにしている。その際良い問題や悪しき問題等の例をあげて解説しているのでよく聞いて記憶しておく事。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	I：序論 ー健康な身体ー	人体の各部の位置と構成					
3~4	身体各部の名称	頭部、頸部、顔部、胸部、背部と身体表面の解剖学上の特徴					
5~6	II：細胞と体液	基本単位としての細胞と構成、人体の皮膚や器官構成と体液					
7~8		皮膚ならびに体液ー細胞内液と細胞外液ー					
9~10	III：骨格・筋・運動 ー横紋筋と平滑筋ー	硬骨とその名称、種類、形と可動連結、不動連結					
11~12		筋と腱、骨格筋の働き、消化器官の筋					
13~14		表情運動と顔面筋、上肢と下肢、胸部と背部の筋					
15~16	IV：神経と感覚器官	神経細胞、中枢神経、末梢神経と脊髄					
17~18		体性神経と自律神経ー交感神経と副交感神経ー					
19~20		感覚器官ー視覚、聴覚、味覚、嗅覚ー					
21~22		皮膚感覚、深部感覚、内臓感覚					
23~24	循環器系	心臓ー左心室と左心房、右心室と右心房、動脈、静脈と門脈循環ー					
25~26		血液ー赤血球、白血球、血小板と血漿ー					
27~28	呼吸器とそのはたらき	鼻孔、咽頭、喉頭、気管と気管支					
29~30		呼吸運動ー肺の機能／炭酸ガスと酸素とのガス交換ー					
到達目標	期末試験、講義終了後の小テストを常時 60 点以上の成績を取り、美容師国家試験を 1 回でクリアすることを第一の目標とする。						
評価方法	1. 出席率は 70%以上とする。 2. 期末テストの結果と、解剖学の理解度を受講態度と筆記試験によって評価する。 3. 講義毎に、国家試験予想問題の例題 2 問を出題、その結果と出席率によって判定する。						
履修上の 注 意	1. 講義の始めの挨拶、教室内での脱帽 2. 講義中の私語の禁止、携帯電話の使用を控える。						
参考文献	『入門人体解剖学』 藤田恒夫 著 南江堂 2008						

授業科目	人体の構造と機能Ⅱ Structure and Function of Human BodyⅡ						
開講年次	2年前期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	引地 学						
テキスト	『理容美容保健』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	解剖学授業で得た知識を基として、摂取された栄養素の体内でのエネルギー変換や生物代謝による生命の維持活動を学ぶ。さらに、生命活動をする上での生物体内におけるビタミン、ホルモンやミネラルの働きを学び、生物としての免疫機能や恒常性を理解し、「健康な身体」、「健全な皮膚と頭毛」等の知識を深め、将来の美容技術の向上を図ることを目標とする。						
授業概要	Ⅰ：消化器官とそのはたらき－消化と食物代謝－ Ⅱ：体内水分の調節と水分の排泄 Ⅲ：内分泌器官系のはたらきとホルモンの調節機構 Ⅳ：免疫と耐性 Ⅴ：運動・休養・労働・睡眠						
時間外学習	美容師は、頭毛や皮膚・肌の保健・健康とそれらの美にたずさわる職業なので、一般の人以上に解剖・生理学（当授業科目）に関する知識を身に付ける必要性を要請されている。当大学の学生にとって、生理学（人体の構造と機能Ⅱ）は、人体の構造と機能Ⅰとともに最初めの具体的な学問分野なので、時間外学習、とくに準備学習・予習が必須である。以下、時間外学習の具体的な自己学習方法を示す。 1) 受講に際しての履修要項（シラバス）に記してある当日の授業概要を読んでおく。 2) シラバスには授業計画とその内容が記されている。その概要を把握しておく。 3) 生理・解剖学は諸君にとってははじめて聞く言葉が多い。とく重要な言葉は何度も繰り返し言うのでノート等に記しておく。 4) 講義をはじめに、前週の小テスト模範解答と解説をしている。良い問題や悪しき問題等の例をあげているのでそれらの解説もよく聞いておく。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1～2	Ⅰ：消化器官	口腔、咽頭、食道と胃腸の役割					
3～4	－消化と食物の吸収－	十二指腸、空腸、回腸のそれぞれのはたらき					
5～6	－消化器系器官と消化液－	肝臓、胆嚢、胆汁と脂質について					
7～8		すい臓、消化酵素、消化吸収とは					
9～10		大腸、結腸、直腸について					
11～12	Ⅱ：泌尿器官とそのはたらき	腎小体と尿細管、尿管、膀胱、尿道と尿排泄					
13～14		腎小体、尿細管による糖、水分の再吸収					
15～16	Ⅲ：内分泌系器官とそのはたらき －外分泌腺と内分泌腺－	内分泌腺とホルモン、脳下垂体、すい臓（外分泌と内分泌）					
17～18		甲状腺、上皮小体（副甲状腺）、副腎皮質、副腎髄質					
19～20		精巣、卵巣－ステロイド性ホルモン－					
21～22		ストレスと自律神経－交感神経と副交感神経－					
23～24	Ⅳ：環境と生体	生体の恒常性－生理的適応、免疫的適応－					
25～26	－免疫とは－	免疫と生体防御、抗原・抗体反応、アレルギー					
27～28	Ⅴ：運動と休養	エネルギー代謝と栄養素、労働、運動					
29～30	－自律神経、交感神経、副交感神経のはたらき－	疲労、休養、睡眠					
到達目標	講義終了後の小テストでその日の講義の理解度をチェックし、60点以上を目標とする。						
評価方法	1. 講義毎に、その日に勉強した内容に関する国家試験問題を模した例題2問を出題し、内容の理解度を把握するとともに、出席状況を確認する。 2. 出席率を70%以上とする。 3. 期末テストを実施し、生理学の基本的な内容の理解度を授業態度ならびに筆記試験によって評価する。						
履修上の 注 意	1. 講義開始時の挨拶 2. 教室内での脱帽、講義中の携帯電話の使用と“おしゃべり”の禁止						
参考文献	『生理学』 坪井實 著 広川書店 2009						

授業科目	物理 Physics						
開講年次	1年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	山下 光男						
テキスト	『物理・化学「物理」』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	理容・美容の分野では、物理の知識と原理が数多く使われています。本講座では、それらを十分に理解し、理容・美容技術をより高め、より安全に行う事を目標とします。さらに、毎回、演習問題を解き、国家資格取得のための実力を養います。						
授業概要	テキストの内容に沿って、力学、熱学、光学、電磁気学の順に講義します。それらの内容を演習問題や小テストにより確認します。毎回、スライドを使い、質疑や、講義内容をレポートにまとめて提出してもらいます。ビデオやWEBからの画像情報を検討することもあります。						
時間外学習	準備学習、予習、復習は、特に必要ありません。授業に集中し、レポートをまとめることで、実力がついてきます。授業の内容について、疑問点があれば、その授業終了後に質問するようにしてください。演習問題の解き方が、わからないときは、もう一度自分で考えてみることも必要です。						
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1~2	力とその働き	力の三要素、力のつり合い、モーメント、てこ、物体の安定					
3~4	刃物と力	力による物体の変形、刃物の切断作用と使い方					
5~6	温度と熱	セ氏温度と絶対温度、温度計、比熱と熱容量					
7~8	熱の移動	熱力学の基礎、熱の伝導・対流・放射、保温					
9~10	物質と状態変化	物質の三態と状態変化、状態変化と熱の出入り					
11~12	光の進み方	光の直進と速さ、光の反射と屈折、平面鏡					
13~14	光の色と明るさ	光の色と物体の色、光源と明るさ、部屋の明るさ					
15~16	電気の基本的性質	摩擦電気、静電気、電流と電気抵抗、オームの法則					
17~18	電気の化学作用と電池	電流の化学作用、電気分解、電池とその種類					
19~20	電気エネルギー	電流と熱、ジュールの法則、電力と電力量					
21~22	磁石と電流の磁気作用	磁石と磁気、電流の磁気作用、フレミングの左手の法則					
23~24	電磁誘導と変圧器	モーター、電磁誘導と誘導電流、変圧器（トランス）					
25~26	理容・美容の電気機器	電流の作用と電気機器、理容・美容器具、赤外線と紫外線					
27~28	電気機器の使用上の注意	電気に関する法律、漏電と感電、ショートと接触不良、電気機器取り扱い上の注意点					
29~30	終講試験	筆記試験					
到達目標	理容・美容の器具や道具を正しく安全に取り扱うことができ、力、熱、光、および電氣的な基礎知識を理解できることを目標とします。また、美容師国家試験受験に備えて、物理の基本問題を解く知識や能力を得ることも到達目標です。						
評価方法	毎回レポートを提出してもらい、出席点と平常点に加算します。合計30%前後にします。また、終講試験の割合は70%前後で、両方をあわせて総合成績として、合否および優良可を決めます。						
履修上の 注 意	将来の目標をしっかりと定め、自分の将来のために勉強して下さい。必ず、役に立つ時がくるはずですが、出席率が不足した場合は、終講試験が受けられないので注意して下さい。						
参考文献	『物理』 大島泰朗 監修 実教出版 2004						

授業科目	化学 Chemistry						
開講年次	2年前期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	鎌田 正純						
テキスト	『物理・化学「化学・化粧品化学」』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	現在の美容には様々な化学物質や化学反応が応用されている。従って美容師には、美容に応用されている化学の知識や知見は不可欠である。そこで、本授業では、美容と関連性のある化学の基礎知識を理解することを目標とする。本目標を達成するために、化学の基礎から授業を行うが、特に、美容と関連が深い生体成分の働きや化粧品素材の知識を習得する上で必要となる物質の性質や化学反応の基礎知識の教授を重点的に行う。また、化学は自然現象・生命現象・環境問題などに深く関係している。すなわち、日常生活のみならず、芸術的な造形のモチーフとなる構造も化学の視点から見ることもできる。このように、様々な形で化学が活用されていること・活用できることを理解することも目標とする。						
授業概要	美容や芸術との関連性を重視した授業を行うことを予定している。①「化学の基礎」（1回－4回）：化学を学ぶにあたり、必要となる基礎知識を教授し、化学的な視点から物質を捉えることを目指す。②「無機素材」（5回－6回）、③「有機素材」（7回－12回）および、④「天然素材」（13回－16回）：基本的な純物質の名称、化学構造および、その性質や機能の紹介に加え、化粧品（化粧品など）への応用されている物質について、名称、化学構造および、その性質や機能を教授する。⑤「混合物の化学」（17回－22回）および⑥「化学反応と美容」（23回－26回）：美容に応用されている化学反応や混合物の性質などについて、化学的な知見や視点に基づいて紹介する。⑦「化学と形」（27回－29回）：自然の作り上げた様々な造形について、化学の視点から紹介する。下記の授業計画には、各授業の概要と学習上重要となるキーワードを掲載した。						
時間外学習	予習・準備学習は、本シラバス中の内容およびキーワードを参考に、『物理・化学「化学・化粧品化学」』にてその言葉の意味および、その言葉が用いられている分野の把握に努めること。また、必要に応じて参考文献を調べること。 復習は、授業で使用したプリントをもとに、『物理・化学「化学・化粧品化学」』にて、学習内容の確認を行うこと。そして、本シラバスに記載されているキーワードについては、しっかり説明できるように自らの言葉でノート等に整理しておくとともに、①～③の項目についてもその内容を合わせて整理しておくこと。また、実生活に応用されているものについては、自宅等にある製品を手に取り、その応用例を確認すること。						
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1~2	化学の基礎1 物質の構成と元素	①物質の定義・分類および存在状態について理解する。②物質を構成する原子とその基本構造について理解する。③原子の安定化とイオンについて理解する。 [キーワード] 混合物・純物質・単体・化合物・元素・原子・陽子・中性子・電子・イオン					
3~4	化学の基礎2 化学結合と化学反応	①物質を構成する原子間の化学結合について理解する。②化学反応と化学平衡の基本的な考え方について理解する。③物質の定量的な扱いについて理解する。 [キーワード] イオン結合・共有結合・金属結合・分子・結晶・化学反応式・質量保存則・可逆反応・不可逆反応・化学平衡・原子量・モル					
5~6	無機素材 単体と無機化合物	①水やアンモニアのような非金属物質の性質について理解する。②金属原子および金属化合物の性質や用途について理解する。③無機化合物の命名法について理解する。 [キーワード] 無機物質・非金属・希ガス・金属・合金・酸化物・イオン化傾向・無機顔料（白色顔料・着色顔料・体質顔料）					
7~8	有機素材1 有機化学の基礎と炭化水素	①有機化学の基盤となる炭化水素の名称と構造の関係を理解する。②化学式と構造式の違い（異性体）について理解する。③炭化水素の由来、性質や用途について理解する。 [キーワード] 炭化水素・アルカン・アルケン・アルキン・異性体・単結合・二重結合・三重結合					

9~10	有機素材 2 官能基をもつ有機化合物	①有機化合物を特徴づける官能基の種類と構造について理解する。②官能基を含む有機化合物の名称の特徴を理解する。③化粧品等に使用される様々な官能基をもつ有機化合物の機能について理解する。 [キーワード] アルコール・アルデヒド・ケトン・カルボン酸・アミン・エステル・多価アルコール・高級アルコール・脂肪酸
11~12	有機素材 3 芳香族と高分子	①芳香族の化学的な特徴と構造について理解する。②高分子の合成法と化学的な特徴について理解する。③日常生活および美容に使用されている様々な芳香族と高分子の特徴をについて理解する。 [キーワード] 芳香族・ベンゼン・二置換芳香族(オルト-, メタ-, パラ-)・単量体・高分子・重合・縮合・熱可塑性・熱硬化性。
13~14	天然素材 1 脂質と糖類	①脂質の基本構造、脂質の生体内や化粧品における機能について理解する。②糖の基本構造、糖の生体内や化粧品における機能について理解する。③脂質や糖から誘導される物質の機能について理解する。 [キーワード] 脂質・油脂・トリグリセリド・ロウ・脂肪酸・酸化防止剤・単糖・二糖類・多糖
15~16	天然素材 2 アミノ酸とタンパク質	①アミノ酸とアミノ酸から構成されるタンパク質の化学構造および機能について理解する。②毛髪の化学的な構造と毛髪の代表的な構成成分について理解する。 [キーワード] アミノ酸・ペプチド・単純タンパク質・複合タンパク質・酵素・ケラチン・シスチン・シスチン結合・イオン結合・水素結合・メラニン
17~18	混合物の化学 1 溶液・酸とアルカリ	①混合物の特徴について理解する。②代表的な混合物である水溶液の構成および定義について理解する。③酸と塩基が水溶液中で示す特徴について理解する。 [キーワード] 溶液・水溶液・溶質・溶媒・水和イオン・非水和イオン・溶解度・飽和溶液・弱酸・強酸・弱塩基(弱アルカリ)・強塩基(強アルカリ)
19~20	混合物の化学 2 水素イオン指数・酸とアルカリの反応	①酸とアルカリが関与する化学反応について理解する。②水溶液の定量的な扱い(濃度)について理解する。③水溶液中に生じた水素イオン定量的に扱いについて理解する。 [キーワード] 中和反応・加水分解反応・塩・けん化・モル濃度(mol/L)・pH(水素イオン指数)・水のイオン積・pH指示薬
21~22	混合物の化学 3 界面活性剤とコロイド	①界面活性剤の化学構造の特徴とその性質について理解する。②界面活性剤のつくる特異な構造について理解する。③様々な物質が不均一に存在する混合物(コロイド)について理解する。 [キーワード] 界面活性剤(陰イオン・陽イオン・両性イオン・非イオン)・コロイド・乳化・懸濁・分散層・分散媒・コロイド・ミセル・ゾル・ゲル
23~24	化学反応と美容 1 酸化と還元	①酸化反応と還元反応の定義や特徴について理解する。②パーマネントウェーブ剤の毛髪への作用について理解する。③燃焼と消火の原理について理解する。 [キーワード] 酸化・酸化剤・還元・還元剤・燃焼・パーマネントウェーブ第1剤・パーマネントウェーブ第2剤
25~26	化学反応と美容 2 化学構造と色	①有機化合物の共役二重結合と吸収波長の関係について理解する。②化粧品に利用される有機合成色素や紫外線吸収剤について理解する。③カラーリング、ブリーチの原理について理解する。 [キーワード] 共役二重結合・吸収波長・有機合成色素・紫外線吸収剤・酸性染料・酸化染料(p-フェニレンジアミン)・過酸化水素
27~28	自然造形の化学 1 分子構造の対象性	①分子や結晶の対象要素(回転軸・対称面・対称心・回映軸・掌性・反掌性等)について理解する。②分子や結晶をひとつの造形物として、化学構造の中にある美と芸術性について理解する。 [キーワード] 回転軸・対称面・対称心・回映軸・掌性・反掌性

29~30	自然造形の化学2 化学物質の組織化	①分子が秩序化して自発的に形成される自己組織化について理解する。②自然界に形成される形やパターンのできる環境について理解する。③化学と芸術と美容の接点について理解する。 [キーワード] 自己組織化・閉鎖系・開放系・カオス・フラクタル・体表模様・BZ反応
到達目標	美容や芸術と関連性のある化学の基礎知識、物質の基本的な性質、自然界の原理などを修得することを目標とする。特に、授業計画に記載したキーワード等について、美容や芸術との関連性に基づいて理解することを目指す。	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績は、基本的に期末試験の得点によって評価する。</li> <li>・なお、期末試験の得点が60点以上の者に対しては、練習問題や課題の提出状況を加点要素とする。</li> </ul>	
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業は、美容師法上の必修科目であるので、原則として欠席は認めない（欠席した場合には、その理由に関わらず欠席届を提出すること）。</li> <li>・『物理・化学「化学・化粧品化学」』は授業に使用するので、必ず持参すること。</li> <li>・講義中のおしゃべりをはじめ、手紙をまわすなどの他人の迷惑となる行為は厳禁とする（退出を命じるとともに、以後、本授業に参加する権利を剥奪します。）。</li> <li>・美容分野で活躍するためには、化学に関する知識は必須である。化粧品化学の授業やその後のスキルにおいても利用できるように、講義内容はノート等にきちんとまとめておくことが重要である。</li> </ul>	
参考文献	<p>○化学の基礎を学ぶために 『化学超入門』 左巻建男編著 日本実業出版社 2003</p> <p>○より深く学びたい方のために 『界面・コロイド化学の基礎』 北原文雄著 講談社サイエンティフィック 1997 『色の化学』 中原勝儼著 培風館 2002 『分子の対称と群論』 中崎昌雄著 東京化学同人社 1987 『自己組織化とは何か』 生命の形やリズムが生まれる原理を探る 都甲潔、江崎秀、健司 著講談社ブルーバックス 1999</p>	

授業科目	化粧品化学 Cosmetic Chemistry						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	磯部 次男						
テキスト	『物理・化学「化学・化粧品化学」』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	化粧品に用いられている原料の化学的性質や配合目的などについて学び、各種化粧品の有用性、安全性および使用目的について理解を深めます。						
授業概要	化粧品概論、化粧品原料、基礎化粧品、メイクアップ化粧品、毛髪用化粧品、特殊化粧品の項目に分けて解説します。化粧品化学の理解を助け学生の授業参加を促すため、各自が日頃使用している化粧品のデータを電子メールによりレポートとして提出してもらいます。 美容師として業務上使用する化粧品だけではなく、レポートとして提出されたデータも引用しながら授業を進め、化粧品に表示されている配合成分の化学的性質や配合目的などについて学びます。						
時間外学習							
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	化粧品概論 化粧品と薬事法	化粧品の歴史と定義について 化粧品と薬事法との関連について					
3~4	化粧品原料 1 水性原料 油性原料	化粧品に使用されている水性原料の種類と性質、および保湿剤について 化粧品に使用されている油性原料の機能および種類と性質について					
5~6	化粧品原料 2 界面活性剤	界面活性剤の基本的性質について 化粧品に使用されている界面活性剤の種類について					
7~8	化粧品原料 3 高分子化合物 香料	化粧品に使用されている高分子化合物の種類と用途について 化粧品に使用されている香料の役割、種類および芳香製品について。					
9~10	化粧品原料 4 色材	化粧品における色材の重要性および効果と役割について 化粧品に使用されている色材の種類と性質について					
11~12	化粧品原料 5 その他の配合成分	防腐・殺菌剤、酸化防止剤について 紫外線吸収剤、収れん剤およびホルモン剤、ビタミン剤、アミノ酸類等について					
13~14	基礎化粧品 1 皮膚洗浄剤 化粧水	基礎化粧品の使用目的と作用、および皮膚用洗浄剤の種類と機能について 化粧水の種類と機能について					
15~16	基礎化粧品 2 クリーム・乳液	クリーム・乳液の皮膚への作用、およびエモリエント剤について クリーム・乳液の種類と機能、分類および必要な性質について					
17~18	ベースメイクアップ化粧品	メイクアップ化粧品の種類と機能について ベースメイクアップ化粧品の種類と機能について					
19~20	ポイントメイクアップ化粧品	ポイントメイクアップ化粧品の種類と機能について 紅類およびアイメイクアップ化粧品の種類と機能について					
21~22	毛髪用化粧品 1 シャンプー剤・ リンス剤・スタイリング剤	頭皮と毛髪について、およびシャンプー剤の種類と機能について リンス剤・スタイリング剤の種類と機能について					
23~24	毛髪用化粧品 2 パーマントウェーブ用剤	パーマントウェーブの原理について パーマントウェーブ用剤の種類					
25~26	毛髪用化粧品 3 染毛剤	染毛剤を中心に、ヘアブリーチ剤等の種類と機能について					
27~28	その他の化粧品	サンケア製品の種類と機能について 美白化粧品、制汗・脱臭剤、ニキビ用化粧品の種類と機能について					
29~30	筆記試験						
到達目標	美容師国家試験の化粧品化学の問題を確実に正解できる知識を身につけること。および、美容師として化粧品に関するアドバイスが出来るよう、化粧品の有用性、安全性および使用目的に対する十分な知識を習得することを目標とします。						
評価方法	出席状況、受講態度、毎回行う小試験の結果、メールによるレポートの提出状況、および期末試験の結果等を評価の対象とします。						
履修上の 注 意	美容分野で活躍するには美容技術以外に、化粧品に関する知識もまた大変重要になります。卒業後も化粧品化学の知識を活用出来るよう、講義内容、印刷物等を講義のたびに各自でまとめ、いつでも利用出来るよう心掛けてください。						
参考文献	『新化粧品学』 光井武夫 編 南山堂 1993						

授業科目	美容の歴史と文化 History and Culture of Aesthetics						
開講年次	1年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	鈴木 昌子、澤村 英子、下家 由起子						
テキスト	『美容文化論』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	<p>古来日本人が他国から受容した技術や表現技術をいかに吸収し、自国の美容文化として昇華させていったのか、わが国における美容の歴史と文化の形成について考えることを目標とする。そして国際人として活躍するために、主に髪型・服装等の視点から日本の文化、歴史の理解を深める。</p> <p>また、接客において、年齢にかかわらず、多くの人とコミュニケーションができなければならないが、髪型にまつわる話題作りとして、日本の基本的伝統文化の知識を習得する。</p> <p>本科目では祖先から継承してきたわが国の美意識の源流と周辺諸国における美意識を探究することで、その共通性や相違点を受講生自らの視点で感じ取ってもらいたいと思う。後半は西洋の美意識についてもふれる。</p>						
授業概要	大陸文化の受容によって日本の文化が誕生したといえる。日本の歴史のみならず大陸の歴史を通しながら、どのように日本の風俗が出来上がったかを学ぶ。						
時間外学習	テキスト（教科書）を一読すること。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	中国の装飾史と日本の歴史の概要	古代のファッション 髪について					
3~5	衣禪・衣裳、袍袴・裙様式と結髪	大陸文化の影響 はきもの・冠について					
6~8	束帯、袴様式と結髪	独自の国風文化の発達 仏像のみわけ方					
9~11	上下様式と結髪	甲冑について学ぶ 武士の世界					
12~13	南蛮風俗と結髪	近世初期風俗画を通して、屏風、帯、髪飾、縮毛					
14~15	小袖様式と結髪	浮世絵を通して、江戸中期、後期の風俗を学ぶ					
16~17	和洋折衷様式と結髪	身分階級から時代の表現へ 西洋文化の流入による風俗					
18~19	新日本髪展示、日本髪のデッサン	日本の風俗である新日本髪を展示する					
20~21	現代の美容における装飾文化Ⅰ	造形文化と美意識①					
22~23	現代の美容における装飾文化Ⅱ	造形文化と美意識②					
24~25	現代の美容における装飾文化Ⅲ	造形文化と美意識③					
26~27	現代の美容における装飾文化Ⅳ	造形文化と美意識④					
28~29	現代の美容における装飾文化Ⅴ	造形文化と美意識⑤					
30	まとめ						
到達目標							
評価方法	出欠状況・ミニレポート・レポートから総合的に判断する。						
履修上の 注 意	欠席があると単位修得不可となる。 美術展や展覧会の鑑賞など、自主的な活動を望む。						
参考文献	プリント配布、ビデオ						

授業科目	美容デザイン Aesthetic Design						
開講年次	2年前期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	富田 知子、武藤 祐子						
テキスト	資料配布						
教育目標 ねらい	お洒落を含む全ての生活空間が高級化し、より格調高い美意識が求められるようになった。この授業では、人体を中心に、髪、服飾等の美的原理、さらに古典美の基本などを学びこれからの美容のあり方について考察する。また、講義に平行して、簡単なスタイル・デッサンを行い美しい造形について理解を深める。						
授業概要	古代から現代までの美容の歴史を振り返り、建築、絵画、彫刻等の芸術と美容の関係を分析し、その中にある美的原理を知る。後半では、ヘアデッサンの基礎練習と、色々な要素からヘアデザインへの転換等をしデッサンで表すことを演習する。						
時間外学習	授業後、受講した部分に関係ある時代の作品集などを見ると理解が深まる。 また後半のヘアデッサンの部分では、ヘアメイク作品の写真をみるばあい、そのスタイル構成などを意識して見ることが大切である。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	古代の美容	講義：古代エジプトと古代ギリシア・ローマを					
3~4	中世の美容	講義：15世紀・16世紀					
5~6	近代の美容	講義：17世紀～19世紀					
7~8	現代の美容	講義：20世紀					
9~10	美容デザイン演習1	顔のバランス : 顔の描き方					
11~12	美容デザイン演習2	美容における点の要素 : 毛髪の描き方					
13~14	美容デザイン演習3	美容における線の要素 : ヘアデッサン1					
15~16	美容デザイン演習4	美容における色の要素 : ヘアデッサン2					
17~18	美容デザイン演習5	美容作品写真からのデザインの把握とデッサン①					
19~20	美容デザイン演習6	①からデザイン展開					
21~22	美容デザイン演習7	①からデザイン展開					
23~24	最終作品制作	最終作品のデザインコンセプトの決定					
25~26	最終作品制作	作品制作					
27~28	最終作品制作	作品制作					
29~30	最終作品制作	作品制作					
到達目標	時代様式と美容の関係、美容デザインの成り立ちを知り、各自ヘア・メイクデザインを作成できるようにする。						
評価方法	1. 授業の出席状況・授業態度 2. 作品提出 3. プレゼンテーション						
履修上の 注 意	1. 授業の出席状況・態度を重視します。 2. 作品への取り組み方を重視します。						
参考文献	『西洋髪型図鑑』 リチャード・コーソン著 女性モード社 1976						

授業科目	ファッション文化論 Fashion Studies						
開講年次	1年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	青木 和子						
テキスト							
教育目標 ねらい	<p>コミュニケーションの場において、衣服の貢献する力はいつの時代でも大変大きい。 長い服装史の中で 20 世紀に起こった変化は、それまでの歴史にはなかった新しいファッション概念を生み出した。激動の 100 年間で「デザイナーの偉業」という視点から客観的に検証することで、過去と現在が理解でき、未来が見えてくるはずである。 この科目では、それらを通して流行のメカニズムと現代社会が持つファッションに対する価値観を探る。 また、フォーマル・ウエア（ブライダル・ウエアを含む）の最前線を見つめ、美容師の使命を考える。</p>						
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>19 世紀末までのファッション史の展望</li> <li>20 世紀初頭のドレス・ダウンという発想</li> <li>社会情勢とファッションの関係</li> <li>20 世紀が生んだファッション・システム</li> <li>現在のドレス・コードとその必要性</li> <li>「小袖」にみる意外な可能性 他</li> </ol>						
時間外学習							
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	モードのジャポニスム	19 世紀後半に日本の着物がヨーロッパに及ぼした影響を探る					
3~4	ベル・エポック	20 世紀初頭までに西欧ファッションが目指した価値観を検証する					
5~6	ドレス・コード	西洋のフォーマル・ウエアの成り立ちとその役割を理解する					
7~8	オート・クチュール	全盛期に導いたデザイナー達を追い、オート・クチュールを理解する。					
9~10	クチュリエール	世界大戦をはさんだ時代に活躍したデザイナーの仕事を追う					
11~12	ギャルソンヌ	女性の自立を引き起こしたファッション革命とは					
13~14	豊かさへのノスタルジー	第二次世界大戦後、女性の夢を実現したデザイナーを追う					
15~16	スティリスト	プレタ・ポルテの成り立ちとその動向を把握する					
17~18	ポペリズム	現在のファッションに対する価値観を築いたデザイナー達を追う					
19~20	ファッション・システムの揺らぎ	社会情勢をふまえた 20 世紀のファッション史を概観し、これからの考える					
21~22	日本の服装史	特殊な発展をとげた日本の服装史を、「小袖」を軸に検証する					
23~24	車いす利用者のための着物着つけ	「着物を着る」という概念から離れた着つけ法を知り、美容福祉を考える					
25~26	フォーマル・ウエア	世界基準のフォーマル・ウエアの正しい着装ルールとマナーを学ぶ					
27~28	ブライダル	現在のブライダル事情（洋装）を知る					
29~30	小テスト	大切な要点が理解できたか確認する					
到達目標	歴史と社会をふまえた 20 世紀のファッションを探ることで現代のファッション・システムを理解させ、今とこれからの時代を担うトレンド・セッターとしての自覚と責任を促し、客観視から生まれる一人一人の創造力と応用力を導き出したい。						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常の出席状況と出席態度</li> <li>2. レポート</li> <li>3. 小テスト</li> </ol>						
履修上の 注 意	学生自身のファッションに関するイベントや展覧会への鑑賞を望む						
参考文献	『美容文化論』 日本理容美容教育センター編 『美容技術理論 2』 日本理容美容教育センター編						

授業科目	美容技術理論 I Hairstyling Theory I						
開講年次	1 年前期	単位	1 単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	山本 恵子、加藤 宏美 他						
テキスト	『美容技術理論 1・2』 日本理容美容教育センター編 2010 美容師実技試験実技課題『技術の解説及び図解』 理容師美容師試験研修センター編 2010						
教育目標 ねらい	現在の美容技術は薬剤の発展と共に複雑化し、正確に行わないと危険を伴うこともある。ここでは美容技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の修得をめざす。						
授業概要	美容師としての心構え、美容技術の基礎理論を学ぶ事によって、美容技術の理解を高め、美容実習につなげていく。						
時間外学習	学んだ基礎理論を復習し、ノートにまとめる。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	序章 美容技術理論を学ぶにあたって	美容理論と美容技術について 美容技術における作業姿勢 美容技術に必要な人体各部の名称					
3~4	1 章 美容用具	美容技術と用具 コーム・ブラシ・シザース・レザーの種類 扱い方					
5~6	1 章 美容用具	ヘアアイロン・ヘアドライヤー・ヘアスチーマー・遠赤外線・その他の美容用具					
7~8	3 章 ヘアカット	ヘアカッティングとは シザースとレザーの扱い方 ヘアカットingの正しい姿勢					
9~10		ブロッキング ヘアカットingの基礎理論					
11~12	4 章 パーマネントウェービング	パーマネントウェーブの歴史と現在					
13~14		ブロッキング パーマネントウェーブの理論					
15~16		パーマネントアラカルト					
17~18		シャンプーイング					
19~20	2 章 シャンプーイング	リンス、コンディショナー、トリートメント					
21~22		スキャルプトリートメント					
23~24	4 章 パーマネントウェービング 理論	復習					
25~26		実際に行うにあたっての注意事項					
27~28	各章まとめ						
29~30	前期末試験						
到達目標	美容技術理論の基礎がわかり、技術として結びつけることが出来るようになる。						
評価方法	出席状況 授業態度 ノート提出 期末試験						
履修上の 注 意	欠席不可						
参考文献							

授業科目	美容技術理論Ⅱ Hairstyling TheoryⅡ						
開講年次	1年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	山本 恵子、加藤 宏美 他						
テキスト	『美容技術理論1・2』 日本理容美容教育センター編 2010 美容師実技試験実技課題『技術の解説及び図解』 理容師美容師試験研修センター編 2010						
教育目標 ねらい	現在の美容技術は薬剤の発展と共に複雑化し、正確に行わないと危険を伴うこともある。ここでは美容技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の修得をめざす。						
授業概要	美容師としての心構え、美容技術の基礎理論を学ぶ事によって、美容技術の理解を高め、美容実習につなげていく。						
時間外学習	学んだ基礎理論を復習し、ノートにまとめる。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1～2	5章 ヘアセッティング	ヘアセッティングとは ヘアパーティング					
3～4		ヘアウェービング					
5～6		フィンガーウェーブの基礎技術 ①					
7～8		フィンガーウェーブの基礎技術 ②					
9～10		クロッキノールカール技術					
11～12		オールウェーブ構成					
13～14		スカルプチュアカール技術					
15～16		リフトカール技術					
17～18		メイポールカール技術					
19～20		6章 ヘアカラーリング	ヘアカラーリング概要				
21～22	ヘアカラーの種類 ヘアカラーのタイプ別特徴						
23～24	染毛のメカニズム 色の基本						
25～26	ヘアカラーリングの注意事項 パッチテスト（皮膚と貼布試験）						
27～28	各章まとめ						
29～30	後期末試験						
到達目標	美容技術理論の基礎がわかり、技術として結びつけることが出来るようになる。						
評価方法	出席状況 授業態度 ノート提出 期末試験						
履修上の 注 意	欠席不可						
参考文献							

授業科目	美容技術理論Ⅲ Hairstyling TheoryⅢ						
開講年次	2年前期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	由井貴美子、武藤 祐子 他						
テキスト	『美容技術理論 1・2』 日本理容美容教育センター編 2010 美容師実技試験実技課題『技術の解説及び図解』 理容師美容師試験研修センター編 2010						
教育目標 ねらい	美容理論を学び幅広い知識を得ることで、サロンワークでの技術に結び付け応用することが可能になる。						
授業概要	国家試験課題を学習し理解することによって、実技課題の習得を容易にする。美容技術理論Ⅰ・Ⅱで学んだ事を土台として、さらにトータル的に美容について修得していく。						
時間外学習	学んだ基礎理論を復習し、ノートにまとめる。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	国家試験 第1課題 オールウェーブ理論	オールウェーブの構成 美容用具					
3~4		カールの構成					
5~6		チェックポイント 注意事項					
7~8	小テスト	国家試験 第1課題					
9~10	2章 シャンプーイング	シャンプーイング、リンス、コンディショナー、トリートメント					
11~12		スカルプトリートメント					
13~14	3章 ヘアカット	シザーズによるカット技法					
15~16		レザーによるカット技法					
17~18	小テスト						
19~20	4章 パーマネントウェービング	パーマネントアラカルト					
21~22	5章 ヘアセッティング	ローラーセッティングの構成					
23~24	小テスト						
25~26	6章 ヘアカラーリング	毛髪のアンドートーンとレベルについて ヘアブリーチ					
27~28		酸化染毛剤 酸性染毛剤の技術プロセス					
29~30	前期末試験						
到達目標	美容技術理論の基礎がわかり、技術として結びつけることが出来るようになる						
評価方法	出席状況 授業態度 小テスト ノート提出 期末試験						
履修上の 注 意	欠席不可						
参考文献							

授業科目	美容技術理論Ⅳ Hairstyling TheoryⅣ						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	由井貴美子、武藤 祐子 他						
テキスト	『美容技術理論 1・2』 日本理容美容教育センター編 2010 美容師実技試験実技課題『技術の解説及び図解』 理容師美容師試験研修センター編 2010						
教育目標 ねらい	美容理論を学び幅広い知識を得ることで、サロンワークでの技術に結び付け応用することが可能になる。						
授業概要	国家試験課題を学習し理解することによって、実技課題の習得を容易にする。美容技術理論Ⅰ・Ⅱで学んだ事を土台として、さらにトータル的に美容について修得していく。						
時間外学習	学んだ基礎理論を復習し、ノートにまとめる。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	国家試験 第2課題 ヘアカッティング理論	ヘアカッティングの構成					
3~4	5章 ヘアセッティング	スキップウェーブ バックコーミング					
5~6		ブロードライ アイロンセッティング					
7~8		アップスタイル ウィッグとヘアピース					
9~10	小テスト						
11~12	8章 ネイル技術	ネイル技術概論 種類 爪の構造 爪のカット形状					
13~14		注意事項とカウンセリング マニキュア ペティキュア リペア技術					
15~16	10章 日本髪	由来 各部の名称 種類と特徴					
17~18	小テスト						
19~20	7章 エステティック	エステティック概論 マッサージ理論 フェイシャルケア ボディケア 脱毛ケア					
21~22	9章 メイクアップ	メイクアップ概論 皮膚の生理学・構造 メイクアップの基本テクニック					
23~24	11章 着付けの理論と技術	着付けの目的 着物・帯の種類 着付け技術					
25~26	小テスト						
27~28	各章のまとめ						
29~30	後期末試験						
到達目標	美容技術理論の基礎がわかり、技術として結びつけることが出来るようになる						
評価方法	出席状況 授業態度 小テスト ノート提出 期末試験						
履修上の 注 意	欠席不可						
参考文献							

授業科目	マネジメント論・労務管理 Management and Labor Administration						
開講年次	2年前期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	桜木 孝司						
テキスト	『運営管理』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	全国の美容サロン数は毎年増え続けています。一方、日本の人口は今をピークにこれからは減少していきます。つまり、美容業界は今後ますます競争が激化していくわけです。そのような状況の中で、今後サロンが生き残っていくためには、経営・マネジメントの知識がどうしても必要となってきます。この講義では皆さんが将来サロンを持つときに、あるいは店長となって店舗を管理する立場になったときに必要となる経営・マネジメントの基礎を学びます。しかし、この経営・マネジメントの知識は決して経営者や店長となってはじめて必要となるものではなく、実はサロンに就職したときからすでに必要となってくるものなのです。競争が厳しい美容業界においては、経営・マネジメントの視点を持つこともこれからの美容師のあるべき姿です。今のうちからしっかりとビジネス感覚を身につけておいてください。						
授業概要	美容をビジネスの観点から見ていきます。サロン経営、店舗運営に直結する内容を講義するとともに、最新の美容業界の動きもつねにチェックしていきます。						
時間外学習	1. テキストは必ず事前に読んでおくこと。 2. 積極的にビジネス書・美容雑誌に目を通しておくこと。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	オリエンテーション	授業の進め方と心構えについて					
3~4	美容業の現状について	現在の美容業はどのような状況なのか					
5~6	経営とは何か？	経営・マネジメントの視点がなぜ必要か					
7~8	労務管理 1	美容業と労務管理 労務管理に関する知識					
9~10	労務管理 2	美容業と人事管理 美容業と社会保障制度					
11~12	経営管理 1	企業の形態 美容業と料金					
13~14	経営管理 2	美容業と経理 美容業の簿記と税務					
15~16	マーケティング 1	なぜマーケティングを学ぶのか マーケティングの基本的な考え方					
17~18	マーケティング 2	マーケティング戦略 競争とポジショニング					
19~20	マーケティング 3	美容業のためのマーケティング 戦略の立て方					
21~22	顧客満足経営	顧客満足経営とはどのような経営なのか 売上志向から顧客志向へ					
23~24	サロン起業 1	サロンの起業とはどのようなものか サロンの起業には何が必要か					
25~26	サロン起業 2	繁盛店を考えてみよう 1					
27~28	サロン起業 3	繁盛店を考えてみよう 2					
29~30	美容ビジネスの将来	今後の美容業はどうなっていくのか					
到達目標	美容業界をビジネスの観点から分析できる力を身につけます。そして皆さんが就職したときに、そして将来サロンを持つときに、店長になったときに役立つ知識とビジネス感覚を養います。						
評価方法	出席状況、授業態度、レポート等から総合的に考慮して評価します。						
履修上の 注 意	受講態度を重視します。						
参考文献							

授業科目	接客法 Customer Service Manners						
開講年次	1年前期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	増田 洋子						
テキスト	『運営管理』 日本理容美容教育センター編 2010 『サービス接客検定受験ガイド3級』 財団法人実務技能検定協会編 早稲田教育出版 2007						
教育目標 ねらい	サービス業に携わる者として、顧客の求める 価値を提供し満足していただける接客知識と技能を学ぶ 接客検定 3級以上 合格						
授業概要	サービススタッフとして、接客マナー・接客技術と共に、お客様に受け入れていただける人間性を磨くための 一般常識としての基本知識を指導いたします。						
時間外学習	個々、自分自身がサービスを受けた時に、良かった事にたくさん感動し、覚え、人に接するときに行える 自分づくりをしていただきたい。						
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1~2	オリエンテーション・挨拶	接客業に携わる者としての挨拶・接客用語					
3~4	接客とは・サービススタッフの資質	『運営管理 p73~ 』『接客検定 p12~ 』					
5~6	接客の原点	『運営管理 p89~ 』 ホスピタリティとは					
7~8	接客の範囲・接客の実践	『運営管理 p95~ 』 おもてなしの環境づくり『接客検定 p114 』					
9~10	接客時のポイント1 話し方	『運営管理 p119~ 』『接客検定 p89~ 』					
11~12	接客時のポイント2	敬語の種類と使い方					
13~14	接客の基本（接客用語）	ご来店からお帰りまでの接客用語・金銭管理					
15~16	電話対応のマナー	電話の受け方・掛けかた					
17~18	接客における注意事項	苦情処理『運営管理 p130~ 』『接客検定 p106~ 』					
19~20	社交業務・慶弔のマナー	『接客検定 p123~ 』					
21~22	一般知識	社会人としてのマナー					
23~24	接客検定にトライアル						
25~26	履歴書の書き方						
27~28	予備						
29~30	期末テスト						
到達目標	サービス業に関わるものとして、笑顔で感じの良い挨拶ができること。接客検定3級合格						
評価方法	1. 出席状況（10%）規定時間以上の出席が原則 2. 授業中の態度（10%） 3. 期末テスト（筆記テスト80%）						
履修上の 注 意	1. 出席状況及び授業中の態度を重視いたします。 2. 授業中は私語・居眠り・飲食・携帯電話等の使用を禁止いたします。 以上の様な行為により、他の人に迷惑をかける方は教室外に出させていただきます。						
参考文献	『サービス接客検定受験ガイド 2級』 財団法人実務技能検定協会編 早稲田教育出版 改訂版						

授業科目	美容基礎技術 I Basic Hairstyling Skills I						
開講年次	1 年前期	単位	4 単位	必選	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	由井貴美子、山本恵子、加藤宏美、平田昌義、武藤祐子 他						
テキスト	『美容技術理論 1・2』 日本理容美容教育センター編 2010 美容師実技試験実技課題『技術の解説及び図解』 理容師美容師試験研修センター編 2010						
教育目標 ねらい	国家試験の合格に主眼を置きながら、“サロンの現場”を主体とした実践的教育(技術)を導入し、技術力を的確に蓄積していく。						
授業概要	美容に関する基礎的理論と知識を学び、実習をとおして基本技術を効率的に習得する。前期には、ワインディング技術を中心にネイル技術と指圧マッサージを学ぶ。後期には、ワインディング技術に加え、ヘアセッティング技術であるオールウェーブセッティングとヘッドスパ、指圧シャンプーを学ぶ。ワインディングとオールウェーブセッティングは美容師国家試験課題に含まれる。						
時間外学習	学んだ技術を予習・復習し練習する。実習内容を「実習ノート」にまとめる。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	美容技術理論を学ぶにあたって	美容技術の教育カリキュラムの説明および諸注意					
3~4		美容における頭部の区分と名称					
5~6	美容用具	美容用具の確認と名称					
7~8		美容用具の取り扱い方					
9~10	ヘアカッティング	頭部ブロッキング、カットの基礎知識とシザーアクション					
11~12		モデルウィッグ(ヘアセッティング用)のカット実践の技術、実践					
13~14		モデルウィッグ(ワインディング用)のカット実践の技術、実践					
15~16		10 ブロッキングの展示・実践					
17~18	ワインディング(ロッド巻) オールパーパス	スライス、コーミングの展示・実践					
19~20		上巻き展示・実践					
21~22		下巻き展示・実践					
23~24		センター					
25~26		バックサイド					
27~28		フロントサイド					
29~30		全頭 60 分 (ブロッキング 5 分)					
31~32		全頭 55 分 (ブロッキング 5 分)					
33~34		全頭 50 分 (ブロッキング 5 分)					
35~36		ネイル理論、ネイルケアプロセス展示					
37~38		ネイルケア実践					
39~40		全頭 50 分 (ブロッキング 5 分)					
41~42	ネイル技術①	ネイル理論、ネイルケアプロセス展示					
43~44		ネイルケア実践					
45~46	ワインディング	全頭 50 分 (ブロッキング 5 分)					
47~48		レベルチェック(全頭 50 分・ブロッキング 5 分)					
49~50	ネイル技術②	ネイルケア復習					
51~52		ハンドマッサージ展示・実践					
53~54	ワインディング	全頭 45 分 (ブロッキング 4 分)					
55~56		ハンドマッサージ復習					
57~58	ネイル技術③	カラーリング展示・実践					
59~60		全頭 40 分 (ブロッキング 4 分)					
61~62	ワインディング	全頭 40 分 (ブロッキング 4 分)					
63~64							

65~66	ネイル技術④	ネイルケア、カラーリング実践
67~68		チップオーバーレイ、シルクラップ展示・実践
69~70	ワインディング	全頭 35 分 (ブロック 4 分)
71~72		
73~74	ネイル技術⑤	I N A 検定プロセス
75~76		
77~78	ワインディング	全頭 35 分 (ブロック 4 分)
79~80		レベルチェック (全頭 35 分・ブロック 4 分)
81~82	ネイル技術⑥	I N A 検定プロセス
83~84		
85~86	ワインディング	全頭 30 分 (ブロック 3 分)
87~88		
89~90	指圧マッサージ①	基礎理論、技術展示・実践
91~92	ネイル技術⑦	I N A 検定プロセス
93~94	ワインディング	全頭 30 分 (ブロック 3 分)
95~96		全頭 30 分 (ブロック 3 分)
97~98	指圧マッサージ②	技術復習
99~100	ネイル技術⑧	I N A 検定プロセス (試験)
101~102	ワインディング	全頭 30 分 (ブロック 3 分)
103~104		
105~106	指圧マッサージ③	技術復習
107~108	ワインディング	全頭 30 分
109~110	ワインディング	全頭 30 分 (ブロック 3 分)
111~112		前期末試験 (全頭 30 分・ブロック 3 分)
113~114	パーマネントウェーブ	パーマ用ワインディング展示・実践
115~116		パーマ用ワインディング実践
117~118		2 浴式コールドウェーブ施術プロセス展示・実践
119~120		2 浴式コールドウェーブ施術
到達目標	国家試験課題であるワインディングとオールウェーブの技術力を高める。	
評価方法	出席状況 授業態度 レベルチェック 期末試験	
履修上の注意	欠席不可	
参考文献		

授業科目	美容基礎技術Ⅱ Basic Hairstyling SkillsⅡ						
開講年次	1年後期	単位	4単位	必選	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	由井貴美子、山本恵子、加藤宏美、平田昌義、武藤祐子 他						
テキスト	『美容技術理論1・2』 日本理容美容教育センター編 2010 美容師実技試験実技課題『技術の解説及び図解』 理容師美容師試験研修センター編 2010						
教育目標 ねらい	国家試験の合格に主眼を置きながら、“サロンの現場”を主体とした実践的教育(技術)を導入し、技術力を的確に蓄積していく。						
授業概要	美容に関する基礎的理論と知識を学び、実習をとおして基本技術を効率的に習得する。前期には、ワインディング技術を中心にネイル技術と指圧マッサージを学ぶ。後期には、ワインディング技術に加え、ヘアセッティング技術であるオールウェーブセッティングとヘッドスパ、指圧シャンプーを学ぶ。ワインディングとオールウェーブセッティングは美容師国家試験課題に含まれる。						
時間外学習	学んだ技術を予習・復習し練習する。実習内容を「実習ノート」にまとめる。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	ワインディング	全頭 28 分					
3~4	指圧シャンプー①	プレーンリンシング展示・実践					
5~6							
7~8	ブレイド技術	ピンギの仕方 ポニーテールの行い方					
9~10		ブラシの行い方					
11~12	ワインディング	全頭 27 分					
13~14	指圧シャンプー②	シャンプーイング (ファーストシャンプー) 展示・実践					
15~16							
17~18	エクステンション技術	エクステンションのスライスの取り方					
19~20		エクステンション (三つ編み・四つ編み)					
21~22	ワインディング	全頭 26 分					
23~24	指圧シャンプー③	シャンプーイング (セカンドシャンプー) 展示・実践					
25~26							
27~28	編み込み技術	表三つ編み・裏三つ編みの行い方					
29~30		タイトロープ・フィッシュボーンの行い方 展示・実施					
31~32	ワインディング	全頭 25 分					
33~34	指圧シャンプー④	ヘアトリートメント展示・実践					
35~36							
37~38	ローラーコントロール①	ブロッキング・スライスの取り方・角度・巻き方の展示・実施					
39~40		ブラシを使用しての仕上げ					
41~42	ワインディング	全頭 25 分					
43~44	指圧シャンプー③	シャンプーイング (セカンドシャンプー) 展示・実践					
45~46							
47~48	ローラーコントロール②	バックコーミングの行い方					
49~50		リセットの行い方 展示・実施					
51~52	ワインディング	レベルチェック (全頭 25 分)					
53~54	デザインパーマ①	相モデルでのワインディング					
55~56	指圧シャンプー⑥	技術復習					
57~58							
59~60	ワインディング	全頭 23 分					
61~62	デザインパーマ②	相モデルでのワインディング					
63~64	ワインディング	全頭 22 分					

65~66	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(ワンストローク、リッジのつなぎ)展示・実施
67~68	指圧シャンプー⑦	技術復習
69~70		
71~72	ワインディング	全頭 22 分
73~74	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(バック 4 線 1・2 線目)展示・実施
75~76	指圧シャンプー⑧	シャンプーイング技術試験
77~78		
79~80	ワインディング	レベルチェック(全頭 22 分)
81~82	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(バック 4 線 3・4 線目)展示・実施
83~84	ヘッドスパ①	基礎理論、技術展示・実践
85~86	ワインディング	全頭 21 分
87~88	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(バック 4 線クロッキノールカール)展示・実施
89~90	ヘッドスパ②	技術復習
91~92	ワインディング	全頭 21 分
93~94	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(バック 4 線 30 分)
95~96	ヘッドスパ③	技術復習
97~98	ワインディング	全頭 20 分
99~100	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(バック 4 線 30 分)
101~102	ヘッドスパ④	技術復習
103~104	ワインディング	全頭 20 分
105~106	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(バック 4 線 30 分)
107~108	ヘッドスパ⑤	ヘッドスパ技術試験
109~110	ワインディング	全頭 20 分
111~112	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(バック 4 線 30 分)
113~114	ワインディング	全頭 20 分
115~116	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(バック 4 線 30 分)
117~118	ワインディング	学年末試験(全頭 20 分)
119~120	ヘアセッティング	学年末試験(バック 4 線 30 分)
到達目標	国家試験課題であるワインディングとオールウェーブの技術力を高める。	
評価方法	出席状況 授業態度 レベルチェック 期末試験	
履修上の注意	欠席不可	
参考文献		

授業科目	美容基礎技術Ⅲ Basic Hairstyling SkillsⅢ						
開講年次	2年前期	単位	2単位	必選	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	由井貴美子、山本恵子、加藤宏美、平田昌義、武藤祐子 他						
テキスト	『美容技術理論1』 日本理容美容教育センター編 2010 美容師実技試験実技課題『技術の解説及び図解』 理容師美容師試験研修センター編 2010						
教育目標 ねらい	国家試験の合格を主眼に置きながら、実技試験の課題を徹底的に反復練習する。技術ごとに定期的なレベルチェック（技術評価）を行い、科学的な分析により評価基準に適合した能力の指導を推進していく。						
授業概要	前半は、国家試験第1課題のひとつであるオールウェーブセッティングを中心に学ぶ。後半は、同じく第1課題のひとつであるワインディングと第2課題であるカッティングを、本学ならではのプロセスにより効果的に教授する。						
時間外学習	学んだ技術を予習・復習し練習する。実習内容を「実習ノート」にまとめる。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1～2	国家試験第1課題 オールウェーブセッティング	ピンカール技術展示・実施					
3～4		構成の確認					
5～6		30分					
7～8		ウェーブ、ピンカール技術の確認					
9～10		レベルチェック 30分					
11～12		サイドからの施術手順展示・実践					
13～14		技術復習					
15～16		技術復習					
17～18		25分					
19～20		25分					
21～22		25分					
23～24		前期末試験 25分					
25～26		国家試験第1課題	構成とプロセス説明、巻き方（上巻き・下巻き）展示・実践				
27～28	ワインディング	角度による収め方をセクション別に展示・実践					
29～30	国家試験第1課題 ワインディング	全頭 40分					
31～32		全頭 35分					
33～34		全頭 30分					
35～36		全頭 30分					
37～38	国家試験第2課題ヘアカッティング	カッティング構成と技術					
39～40		セクション別によるプロセス説明					
41～42		ブロッキング実践					
43～44		カット実践、フロント、サイド					
45～46		カット実践、ネープ、バック					
47～48		仕上げ、全頭復習					
49～50		30分					
51～52		25分					
53～54		20分					
55～56		20分					
57～58		20分					
59～60		レベルチェック 20分					
到達目標	国家試験合格レベルを目標とした指導を行う。						
評価方法	出席状況 授業態度 レベルチェック 期末試験						
履修上の 注 意	欠席不可						
参考文献							

授業科目	美容基礎技術Ⅳ Basic Hairstyling SkillsⅣ						
開講年次	2年後期	単位	3単位	必選	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	由井貴美子、山本恵子、加藤宏美、平田昌義、武藤祐子 他						
テキスト	『美容技術理論1』 日本理容美容教育センター編 2010 美容師実技試験実技課題『技術の解説及び図解』 理容師美容師試験研修センター編 2010						
教育目標 ねらい	国家試験の合格を主眼に置きながら、第1課題を徹底的に反復練習する。技術ごとに定期的なレベルチェック（技術評価）を行い、科学的な分析により評価基準に適合した能力の指導を推進していく。						
授業概要	美容に関する基礎的理論と知識を学び、学習をとおして基本技術を効果的に習得する。国家試験第1課題である、ワインディング・オールウェーブセッティング技術を確実なものにしていく。						
時間外学習	学んだ技術を予習・復習し練習する。実習内容を「実習ノート」にまとめる。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	国家試験第1課題	ワインディング 30分					
3~4							
5~6	国家試験第1課題	ワインディング 30分					
7~8							
9~10	国家試験第1課題	ワインディング 25分					
11~12							
13~14	国家試験第1課題	ワインディング 25分					
15~16							
17~18	国家試験第1課題（レベルチェック）	ワインディング 20分					
19~20							
21~22	国家試験第1課題	ワインディング 19分					
23~24							
25~26	国家試験第1課題	ワインディング 19分					
27~28							
29~30	国家試験第1課題	ワインディング 19分					
31~32							
33~34	国家試験第1課題	ワインディング 19分					
35~36							
37~38	国家試験第1課題	ワインディング 19分					
39~40							
41~42	国家試験第1課題	ワインディング 19分					
43~44							
45~46	国家試験第1課題（前期末試験）	ワインディング 19分					
47~48							
49~50	国家試験第1課題	ワインディング 19分					
51~52		オールウェーブセッティング 25分					
53~54	国家試験第1課題	ワインディング 19分					
55~56		オールウェーブセッティング 25分					
57~58	国家試験第1課題	ワインディング 19分					
59~60		オールウェーブセッティング 25分					
61~62	国家試験第1課題	ワインディング 19分					
63~64		オールウェーブセッティング 25分					
65~66	国家試験第1課題	ワインディング 19分					
67~68		オールウェーブセッティング 25分					

69~70	国家試験第1課題	ワインディング 19分
71~72		オールウェーブセッティング 25分
73~74	国家試験第1課題	ワインディング 19分
75~76		オールウェーブセッティング 25分
77~78	国家試験第1課題	ワインディング 19分
79~80		オールウェーブセッティング 23分
81~82	国家試験第1課題	ワインディング 19分
83~84		オールウェーブセッティング 23分
85~86	国家試験第1課題(レベルチェック)	ワインディング 19分
87~88		オールウェーブセッティング 23分
89~90		国家試験第1課題の見直し
到達目標	国家試験合格レベルを目標とした指導を行う	
評価方法	出席状況 授業態度 レベルチェック 期末試験	
履修上の 注 意	欠席不可	
参考文献		

授業科目	カット I Haircutting I						
開講年次	1 年前期	単位	2 単位	必選	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	平田 昌義、荒井 典子 他						
テキスト	『HAIR SCULPTURE LADIES VOLUME I・II』 『COLOR DESIGN』 PIVOT POINT						
教育目標 ねらい	ピボットポイントシステムによりカットの基礎的技術を幾何学的に理論と技術の習得を行う。 カット技術の基礎理論と技術と同時にヘアカラーリングの基礎理論と技術を重点的に習得する。						
授業概要	ピボットポイントにおける専門用語、理論を理解し、カット技術に結びつけることができるよう習得していく。 また、カラー剤の特徴を把握し、カラー技術を行うことができるように学ぶ。						
時間外学習	毎回のカット・カラーリング工程を予習し、カットの場合はセオリーアセスメントを作成すること。						
授 業 計 画							
回	項 目		内 容				
1~2	CHAPTER	1~7	カット理論/シザーズの扱い方・シザーズ開閉/ブラシの扱い方				
3~4							
5~6	CHAPTER	16, 17	理論/ソリッドフォーム：水平/エアフォーム				
7~8							
9~10	CHAPTER	24, 26	ソリッドフォーム：ダイアゴナルレフト/ダイアゴナルライト				
11~12							
13~14	CHAPTER	28, 34	ソリッドフォーム：ダイアゴナルバック/フォワード				
15~16							
17~18	CHAPTER	36, 37, 40	理論/グラデュエーテッドフォーム：ダイアゴナルライト/水平				
19~20							
21~22	CHAPTER	39, 44	グラデュエーテッドフォーム：ダイアゴナルフォワード/ダイアゴナルバック				
23~24							
25~26	CHAPTER	48	グラデュエーテッドフォーム：パーティカル 水平 ダイアゴナルバック				
27~28							
29~30	CHAPTER	51, 52, 53, 54	理論/インクリースレイヤードフォーム：水平/パーティカル/レザ				
31~32							
33~34	CHAPTER	58, 62, 64	インクリースレイヤードフォーム：ダイアゴナルフォワード/パーティカル/水平				
35~36							
37~38	CHAPTER	73, 74, 75	理論/ユニフォームリーレイヤードフォーム：パーティカル				
39~40							
41~42	CHAPTER	1~5, 8, 11 (カラー①)	ヘアカラー理論/酸性カラスウォッチ作り				
43~44							
45~46	CHAPTER	8, 13 (カラー②)	理論/アルカリカラスウォッチ作り				
47~48							
49~50	CHAPTER	8, 12, 16 (カラー③)	理論/ブリーチスウォッチ作り/ダブルプロセステクニック				
51~52							
53~54	CHAPTER	15, 17 (カラー④)	1タッチ塗布/ウィービングテクニック (シングルフォルト)				
55~56							
57~58	CHAPTER	19 (カラー⑤)	白髪染め：リタッチテクニック (①毛先 ②根元)				
59~60							
到達目標	ピボットポイントの専門用語が理解でき、スタイルを作り上げる行程を理解し、技術を行う事が出来るようになる。 カラー剤の種類・基礎知識・基本技術が出来るようになる。						
評価方法	出席状況・授業態度・作品評価・期末試験・プリント提出						
履修上の 注 意	遅刻・欠席があると再履修もしくは卒業不可						
参考文献							

授業科目	カットⅡ Haircutting Ⅱ						
開講年次	1年後期	単位	2単位	必選	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	平田 昌義、荒井 典子 他						
テキスト	『HAIR SCULPTURE LADIES VOLUME I・II』 『COLOR DESIGN』 PIVOT POINT						
教育目標 ねらい	カットの基礎的技術をピボットポイントシステムにより、幾何学的に理論と技術の習得を行う。 カットⅠの授業の応用理論・応用技術を習得し、より完成度の高い技術を学ぶ。						
授業概要	ヘアカットデザインを踏まえた上でカラーリング技術を行い、応用としての範囲を広げ、ヘアスタイルを作りあげていく。						
時間外学習	毎回のカット・カラーリング工程を予習し、カットの場合はセオリーアセスメントを作成すること。						
授 業 計 画							
回	項 目			内 容			
1~2	CHAPTER	16, 21, 29		理論/ソリッドフォーム：水平/ダイアゴナルバック			
3~4							
5~6	CHAPTER	35		ソリッドフォーム：ダイアゴナルフォワード			
7~8							
9~10	CHAPTER	36, 43		理論/グラデュエーテッドフォーム：ダイアゴナルフォワード			
11~12							
13~14	CHAPTER	45, 46		グラデュエーテッドフォーム：コンベックス/ダイアゴナルバック			
15~16							
17~18	CHAPTER	49		グラデュエーテッドフォーム： バーティカル 水平 ダイアゴナルバック			
19~20							
21~22	CHAPTER	51, 56		理論/インクリースレイヤードフォーム バーティカル			
23~24							
25~26	CHAPTER	59		インクリースレイヤードフォーム：ダイアゴナルフォワード			
27~28							
29~30	CHAPTER	66		インクリースレイヤードフォーム：プラナーコンバージョン			
31~32							
33~34	CHAPTER	73, 76		理論/ユニフォームリーレイヤードフォーム： 水平 バーティカル ピボタル			
35~36							
37~38	CHAPTER	33, 36 (カラー①)		理論/全頭ウィービング (ダブルフォルト)			
39~40							
41~42	酸性カラーリング	(カラー②)		1タッチ塗布			
43~44							
45~46	CHAPTER	29, 30 (カラー③)		理論/ゾーンパターン, ウィービングテクニック			
47~48							
49~50	CHAPTER	20, 24 (カラー④)		理論/全頭スライシング			
51~52							
53~54	期末実技試験	(カット)		1スタイル、カット技術を行う ※スキンヘッド・刈り上げ不可			
55~56							
57~58	期末実技試験	(カラー⑤)		前回カット技術試験を行ったウィッグを使用し、カラーリングを行う ※カラー剤塗布～スタイリングまで			
59~60							
到達目標	ピボットポイントの専門用語が理解でき、スタイルを作り上げる行程を理解し、技術を行う事が出来るようになる。ヘアカットデザインを踏まえた上でカラーリング技術を行い、応用としての範囲を広げ、ヘアスタイルを作り上げられるようになる。						
評価方法	出席評価・授業態度・作品評価・期末試験・プリント提出						
履修上の 注 意	遅刻・欠席があると再履修もしくは卒業不可						
参考文献							

授業科目	クリエイティブ・ワーク Creative Salon Work						
開講年次	2年通年	単位	4単位	必選	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	堀部 美行、河野 誠二 他						
テキスト	『ザ・ドレスト・ヘア』 堀部美行 著						
教育目標 ねらい	流行に敏速に対応でき、流行を創作できる感性を修得し、リーダーとして美容界に貢献できる人材を育成する。						
授業概要	世界で活躍する、堀部美行氏の直接指導を受けながら作品づくりを行う。 この授業は、ロングヘアのウィッグを用いる。 主にアップスタイルの基礎から応用、さらにアイロン技術やブレイドなど多様なドレストヘアの技術を学ぶ。 また、アップスタイルの応用技術の修得と、ヘアスタイリストとしての応用サロンワークの技術を学ぶ。						
時間外学習	学んだ技術を予習・復習し練習する。 実習内容を「実習ノート」にまとめる。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	ベーシック I	ブラッシング 逆毛の立て方・目的 ピンの留め方					
3~4		ゴムの結び方 ローラーの巻き方 (展示)(実習)					
5~6	ベーシック II	夜会巻き (展示)(実習)(採点)(講評)					
7~8							
9~10	ベーシック III	ボンパドール (展示)(実習)(採点)(講評)					
11~12							
13~14	ベーシック IV	ワンロール (展示)(実習)(採点)(講評)					
15~16							
17~18	ベーシック V	日本髪 I (展示)(実習)(採点)(講評)					
19~20							
21~22	ベーシック VI	日本髪 II (展示)(実習)(採点)(講評)					
23~24							
25~26	ベーシック VII	ツイスト I (展示)(実習)(採点)(講評)					
27~28							
29~30	ベーシック VIII	アンデュレイド I (展示)(実習)(採点)(講評)					
31~32							
33~34	ベーシック IX	ブレイド I (展示)(実習)(採点)(講評)					
35~36							
37~38	アドバンス I	アイロンカール/マーセルウェーブ (展示)(実習)(採点)(講評)					
39~40							
41~42	アドバンス II	リボン編み (展示)(実習)(採点)(講評)					
43~44							
45~46	アドバンス III	ブレイド II (展示)(実習)(採点)(講評)					
47~48							
49~50	アドバンス IV	ツイスト II (展示)(実習)(採点)(講評)					
51~52							
53~54	アドバンス V	アンデュレイド II (展示)(実習)(採点)(講評)					
55~56							
57~58	実技チェック 自由創作 I	オリジナル作品 (実習)(採点)(講評)					
59~60							
61~62	実技チェック 自由創作 II	オリジナル作品 芸術祭選抜 (実習)(採点)(講評)					
63~64							

65~66	クリエイティブⅠ	ロールシニヨン (展示)(実習)(採点)(講評)
67~68		
69~70	クリエイティブⅡ	シニヨンカール (展示)(実習)(採点)(講評)
71~72		
73~74	クリエイティブⅣ	ブレイド夜会 (展示)(実習)(採点)(講評)
75~76		
77~78	クリエイティブⅤ	チェーンブレイド (展示)(実習)(採点)(講評)
79~80		
81~82	クリエイティブⅥ	トリプルロール (展示)(実習)(採点)(講評)
83~84		
85~86	実技チェック 自由創作Ⅰ	オリジナル作品 (実習)(採点)(講評)
87~88		
89~90	期末試験 自由創作Ⅱ	オリジナル作品 (実習)(採点)(講評)
91~92		
93~94	シャンプーイング 及びサロンワーク技術	<p>シャンプー理論</p> <p>下準備(ブラッシング・タオル、クロスかけ)</p> <p>シャンプー</p> <p>リンス</p> <p>トリートメント</p> <p>コンディショナー</p> <p>* グループ毎、交互に行っていく</p>
95~96		
97~98		
99~100		
101~102		
103~104		
105~106		
107~108		
109~110		
111~112		
113~114		
115~116		
117~118		
119~120		
到達目標	<p>洋装・和装に対応できる、ドレストヘアをつくる。</p> <p>学内外のアップスタイル・コンテストにて上位入賞を目指す。</p> <p>また、サロンワーク応用技術を修得する。</p>	
評価方法	出席状況 授業態度 日常の作品評価 実技チェック 期末試験	
履修上の 注意	欠席があると卒業不可	
参考文献		

授業科目	メイクアップ I Make-up I						
開講年次	1 年前期	単位	2 単位	必選	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	ティミー西村、時田 真澄 他						
テキスト	『美容技術理論』日本理容美容教育センター編 2010 『メイクアップ I テキスト』公文裕子、時田真澄 著						
教育目標 ねらい	メイクアップの基礎篇として技術やテクニックは勿論のこと、ヘアメイクアップアーティストとして必要不可欠なセンス・創造性・表現法等を学び、本学の教育理念「美道の五大原則」を根底に、トータルビューティスペシャリストとしてのテクニックを研究・練磨する。						
授業概要	メイクアップ I では、基礎化粧品の使い方から基礎的なメイクアップの手順と理論を学ぶ。フェイスマッサージ、好感度を上げるナチュラルメイクアップや一般的なフォーマルメイクアップなど、サロンで通用するメイクアップの技術を習得する。						
時間外学習	実習授業でのメイクアップ作品をデッサンし、作品写真を添付し提出する。 4 月中に、配布された化粧品を試し、正しい使用法を理解する。 ファッション誌に目をとおしトレンドを把握する。						
授 業 計 画							
回	項 目		内 容				
1~2	教材配布		美粧（メイクアップ）I の概要、メイクアップの必要性と意義				
3~4	化粧史		化粧のルーツと文化を研究する				
5~6	皮膚のメカニズムと基礎化粧品		肌のタイプとメカニズム、スキンケア、メイクアップの分類				
7~8	スキンケア①		講義・演習・実習				
9~10	スキンケア②とフェイスマッサージ		クレンジング～フェイスマッサージ				
11~12			講義・演習・実習				
13~14	スキンケア③とフェイスプロポーション		クレンジング～メイクアップベース				
15~16			フェイスプロポーション				
17~18	ベースメイクアップ①		クレンジング～メイクアップベース				
19~20			コントロールカラーとコンシーラー、ファンデーション、フェイスパウダー				
21~22	ベースメイクアップ②		クレンジング～フェイスパウダー				
23~24			ハイライト・シャドウ				
25~26	ポイントメイクアップ②		ベースメイクアップ～				
27~28			アイメイクアップ、アイブロウ				
29~30	ポイントメイクアップ②		ベースメイクアップ～アイメイクアップ				
31~32			リップ・チーク・フィニッシング				
33~34	トータルメイクアップ①		ポイントメイクアップのパターン①、トータルメイクアップ				
35~36			講義・演習・実習				
37~38	トータルメイクアップ②		ポイントメイクアップのパターン②、トータルメイクアップ				
39~40			演習・実習				
41~42	トータルメイクアップ③		色彩とメイクアップ、トータルメイクアップ				
43~44			演習・実習				
45~46	パーティーメイクアップ		イブニングドレスのメイクアップ				
47~48			講義・演習・実習				
49~50	トータルメイクアップ実技試験		ベースメイクアップ～フィニッシングまでの実技試験				
51~52			講義・演習・実習				
53~54	和装のメイクアップ①		振袖のメイクアップ				
55~56			講義・演習・実習				
57~58	模写メイクアップ		流行のメイクアップを模写する				
59~60			講義・実習				
到達目標	メイクアップの基礎から理論と実習と共にナチュラルメイクアップを学ぶ。						
評価方法	1. 出席評価 2. 人物評価 3. 作品提出評価 4. 実技テスト 5. 筆記試験等の合計評価とする。						
履修上の 注 意	メイクアップ I は法定科目に含まれるため、欠席や履修態度により再履修となる。 メイクアップ I が再履修となった場合、メイクアップ II（選択必修科目）は履修できない。						
参考文献	国内外の各社 美容技術誌・その他、美容作品や記事を紹介し、研究する。						

授業科目	伝承美（着装） Traditional Art (Kimono Dressing)						
開講年次	1年通年	単位	4単位	必選	必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	新藤 愛子、佐藤 美奈子 他						
テキスト	『着物着つけ教本』山野流着装教室 第14版 2010 『美容技術理論2』日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	1. 日本の伝承美、着装及び着物について基本知識を習得させ、生活の中に関わる冠婚葬祭及び通過儀礼時の着装について理解させる。 2. 四季に応じた装いと着物、帯、小物などの組み合わせ方によるコーディネイトと装いの表現力、山野流美道のトータルビューティーについて習得させる。 3. 人に着つける。自分で着る。着つけと帯結びの基本技術を習得させる。						
授業概要	伝承美着装を学ぶに当たり、マナーとスマイルを身につける。 “日本の心を着る”という豊かな感性と人を思いやる心を育て、各授業テーマに関する知識を講義・着つけ技術展示指導と実技着つけ実習を行う。						
時間外学習	学内外の着つけコンテスト、学内実技試験の日程に合わせ、授業時間外の自己学習期間及び教員による指導期間を設けています。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	着物の名称、ゆかたと細帯の知識、 ゆかたの着つけと帯結び	平面的で直線で作られた形と、ゆかたの名称、細帯の寸法及び自分で浴衣を着ることを覚える。ゆかたのたたみ方を覚える。					
3~4							
5~6	礼装、留袖の知識：着つけ前の準備 体型作り：長襦袢の着つけ	礼装の着物を知る。着つけの必要品を覚え、半衿を長襦袢に付け手順よく準備する。女性の体型を確認し、極端な凹凸の修正法を覚える。					
7~8							
9~10	留袖の着つけと帯結び袋帯二重太鼓	二人一組で留袖を着つけ、袋帯を用いて二重太鼓を結び、仕上げる。					
11~12		袋帯を知る。留袖のたたみ方。長襦袢のたたみ方。袋帯のたたみ方。					
13~14	黒留袖と色留袖について：留袖の着 つけと二重太鼓	留袖の種類を知る。染められた家紋の数と位置による格。					
15~16							
17~18	年代別留袖の表情と身のこなし総合 美	着る人にふさわしい装いに着つける。ミセスの礼装の美しい動作も含めた総合美を表現する。					
19~20							
21~22	美容技術理論2 (和装のヘアスタイル「留袖」)	ミセスの礼装「留袖」の着つけとヘアスタイルのトータルバランス。					
23~24							
25~26	留袖の着つけと帯結び二重太鼓	更に技術を磨き、手早く着ごちの良い着つけと帯結びを復習。					
27~28							
29~30	盛装の着物と袋帯の知識：袋帯二重 太鼓の結び方	華やかな席に装う着物と、合せる袋帯を知る。小物のコーディネイト。					
31~32							
33~34	礼装留袖の知識：留袖の着つけと袋 帯二重太鼓の結び方	式典や格式ある席の装うミセスの礼装について覚える。留袖と帯結びを更に上手に着せる。					
35~36							
37~38	留袖の着つけと帯結び二重太鼓の結 び方	定められた時間に留袖と帯結びを仕上げる。					
39~40							
41~42	留袖の着つけと帯結び二重太鼓の結 び方	総仕上げ。					
43~44							
45~46	技術確認：留袖の着つけと帯結び	定められた時間に留袖と帯結びを仕上げ、技術審査を受ける。					
47~48							
49~50	ゆかたの着つけと半幅帯の結び方	男子・女子それぞれゆかたを着つけ、男子は角帯と兵児帯の結び方、女子は半幅帯を結ぶ。男物・女物について知る。					
51~52							
53~54	美容技術議論2 (p 113~124 着物と帯の種類)	礼装・四季による着分ける着物と通過儀礼の知識を学ぶ					
55~56							
57~58	細帯の結び方	街着・おしゃれ着の細帯の結び方を覚える。					
59~60							

61~62	外出着についての知識：体型作り、	街着の着物について知る。半衿を確認して着付けの準備をし、着付け必要品
63~64	外出着の着つけ	一式をそろえる。自分の体型を知り、体型づくり・着つけ。
65~66	小紋について：小紋の着つけと名古屋	小紋の着物について知る。自分で小紋の着物を着つけ、一人で名古屋帯総柄
67~68	屋帯全通柄の一重太鼓	の帯で一重太鼓を結ぶ。男子はボディを使用。
69~70	小紋の着つけと名古屋帯六通柄の一	着つけ復習。名古屋帯六通柄の一重太鼓を自分で結ぶ。名古屋帯お太鼓柄一
71~72	重太鼓：名古屋帯お太鼓柄一重太鼓	重太鼓を自分で結ぶ。
73~74	外出着の装い	着物を着た時のマナー・所作等を学ぶ。及び小技術テスト。
75~76		
77~78	小紋の着つけと名古屋帯一重太鼓の	着付け復習。名古屋帯お太鼓柄一重太鼓を自分で結ぶ。
79~80	結び方	
81~82	小紋の着つけと名古屋帯一重太鼓の	自分で着物を着て、名古屋帯を用いて一重太鼓を結ぶ。
83~84	結び方	
85~86	小紋の着つけと名古屋帯一重太鼓の	復習。
87~88	結び方	
89~90	自分で着る小紋の着つけと名古屋帯	復習・総仕上げ。
91~92	一重太鼓の結び方	
93~94	技術確認：自分で着る小紋の着つけ	定められた時間に自分で着つけ、帯結びを仕上げ、技術審査を受ける。
95~96	と帯結び	
97~98	振袖の知識：半衿の確認、長襦袢、	女子の礼装、振袖について知る。着つけの準備から振袖を人に着せる。
99~100	振袖の着つけと帯結び	
101~102	振袖の着つけと帯結びのバランス	振袖の着つけ復習。帯結びのバランスの計り方を覚える。
103~104		
105~106	美容技術理論 2	日本の和装の花嫁衣裳の種類と付属品と衣装一式。振袖色直し衣装と着物を
107~108	(ブライダルに見る現代の和装)	
109~110	着つけの応用	車イス利用者のための着物着つけ。他
111~112		
113~114	知識確認	基礎を理論的に理解したかどうかの確認。
115~116		
117~118	男子の礼装・男子の着物と装い	男子の礼装・紋服の知識。紋付、羽織袴の着つけ・女子の袴の着つ
119~120	女子の袴	
到達目標	美容師として業務における着つけを、目的に応じて行える着つけ技術を養う。	
評価方法	1. 出席 (50%) 2. 実技試験 (30%) 3. 筆記試験 (15%) 4. 小テスト (5%)	
履修上の注意	着装実技に必要な衣装は大学備品を貸与、着つけ技術に必要な教材、着つけ小物は配布 個人持参品 タオル5本 筆記用具 実習着、ソックス着用、着物着用時は、女子は前後共衿開き大きいシャツ、タンクトップ、五分・七分スパ ツ、ペチコートなど、男子は前開きV字型シャツ、ランニングシャツ、に短パン	
参考文献		

授業科目	美容のための美術 Art for Aesthetics						
開講年次	1年通年	単位	2単位	必選	必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	大須賀 万里子、中原 直人、澤村 英子 (開講順)						
テキスト	必要に応じてプリントを配布						
教育目標 ねらい	美容を造形表現と捉え、そのために必要な基礎造形力・表現力と、表現のための知識を身につける。						
授業概要	デッサン (8回)、立体アート (7回)、デザイン (6回)、美術史 (3回)、平面 (6回) をオムニバスで行う。						
時間外学習	美術系や美容系の本、雑誌、新聞等を見ること。(図書館等にて) 美術の展覧会を見ること。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	デッサン (中原)	オリエンテーション					
3~4		石膏デッサン メディチ頭像					
5~6							
7~8							
9~10							
11~12		石膏デッサン マルス胸像 またはヘルメス胸像					
13~14							
15~16							
17~18	点と線の説明と応用 面とかたちの説明と応用 美容 (ヘア・メイク・ファッション等) の平面デザイン基礎技法 平面デザインの技法1 平面デザインの技法2 平面デザインの技法3 平面デザインの技法4						
19~20							
21~22							
23~24							デザイン (大須賀)
25~26							
27~28							
29~30							
31~32	立体 (大須賀)	形と色を立体として造形表現できるよう実技を通じて学ぶ。説明・作品鑑賞					
33~34		立体構成の基礎 「平面から立体へ1」形と構図					
35~36		立体構成の基礎 「平面から立体へ2」形と色彩					
37~38		立体構成の基礎 「平面から立体へ3」形と素材					
39~40		立体構成の基礎 「平面から立体へ4」形と立体空間・作品完成					
41~42	美術史 (澤村)	映像資料を多く用い、世界の一流の美術品に親しむことにより、芸術性を養う。12月の海外研修旅行 (美術館・博物館見学) にも対応する。					
43~44							
45~46							
47~48	絵画 (中原)	細密描写 鉛筆					
49~50		構成 鉛筆、木炭、ペンなど					
51~52							
53~54		自由表現 鉛筆、木炭、ペンなど					
55~56							
57~58							
59~60							
到達目標	基礎的な造形力、表現力を修得し、美容に応用できる能力を身につける。						
評価方法	出席、作品提出、作品評価、受講態度等を総合して評価する。						
履修上の 注 意	内容ごとに教室が変わるので、注意すること。						
参考文献							

授業科目	色彩学 Studies of Color						
開講年次	1年前期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	栗本 佳典						
テキスト							
教育目標 ねらい	色彩の基本的な理論を学ぶことによって、色彩表現の基礎を養う。また、色彩検定への対応も行いながら色名や配色、色のイメージなど色彩の知識の幅を広げ、感性を高める。						
授業概要	色は人間の心や行動に様々な影響を与えている。その色のはたす役割や性質を理解し、色鉛筆やポスターカラー、カラーチャートなど、実際に色を使いながら学習する。						
時間外学習	授業で作成したプリントやチャートなどは、きちんと保存し、いつでも復習できるようにしておく。また、身の回りで使用されている色彩を授業内容と照らし合わせ、自分の経験としていく。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	色彩学について	人間の歴史と色彩					
3~4	スペクトルと三原色	色とスペクトルとの関係および色料、色光の三原色					
5~6	補色	混色と補色					
7~8	色名	J I S 系統色名と慣用色名からオリジナル色作成へ					
9~10	カラーシステム	マンセルカラーシステムと P C C S (カラーチャート作成)					
11~12	トーン	色彩のトーン (カラーチャート作成)					
13~14	カラーシステムのまとめ	テスト形式でカラーシステムの理解を深める					
15~16	トーン配色	トーンを利用した配色					
17~18	色彩調和と配色	基本的な調和配色法からの配色作成					
19~20	色彩心理とイメージ	色が心身に与える作用とカラーイメージデータ					
21~22	イメージからの色彩構成 1	さまざまなイメージを色彩構成で表現する					
23~24	イメージからの色彩構成 2						
25~26	イメージからの色彩構成 3						
27~28	まとめ						
29~30	テスト						
到達目標	色彩の基礎理論を身につけ、知識の幅を広げる。 また、自由に色を作成したり、組み合わせたりできる能力を身につける。						
評価方法	出席状況と提出作品、およびテスト						
履修上の 注 意	パーソナルカラーの選択授業を受けたい学生は、必ず優秀な成績で単位を取得すること。						
参考文献							

授業科目	伝承美（茶道） Traditional Art(Tea Ceremony)						
開講年次	1年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	河原 宗孝						
テキスト	『茶の湯で学ぶ「美」』 河原宗孝 著 (株)淡交社 2008(再々版)						
教育目標 ねらい	現代の美容師には技術の修得のみならず洗練された接客マナーが必要とされている。日本伝統文化である茶道を「道・学・実」三位一体で学び、美の裏方としての人間形成に主眼をおく。中でも精神面の育成について茶道を通して築いていく。						
授業概要	一限のなかに講義と実技（点前の稽古）・呈茶を毎回組み入れる。実技は裏千家茶道の盆略点前を学習し、最後には自分でたてられるまで履修する。なお、呈茶には毎回季節を感じるお菓子をいただきながらお茶をいただく。※希望者は茶道裏千家許状が取得できます。						
時間外学習	茶道の根本精神である「和敬静寂」に則り、日々心を研く。講義の復習として、「利休七則」「歴代家元」を覚える。帛紗の捌き方を予習復習する。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	入門の心得と実技	講義 入門の心得、教材の配布、許状の説明（411） 実技 お菓子、お茶のいただき方、自服					
3~4	禅語（1）と実技	講義 禅語「喫茶法」の読みと意味 自服 実技 和室にて床の拝見、お辞儀の仕方、歩き方					
5~6	美容と茶道の関係についてと実技	講義 お客様が求める美容師とは 「和敬静寂」 自服 実技 和室にて割り稽古（1） 帛紗捌き					
7~8	利休遺偈についてと実技	講義 「利休遺偈」の読み方と意味、裏千家歴代宗匠（1）、自服 実技 和室にて割り稽古（2） 棗、茶杓の清め方					
9~10	ビデオ学習（1）	ビデオ「利休の茶」「愛治庵茶席抜き」 実技 自服					
11~12	開炉についてと実技	講義 炉、風炉、立札の話し 実技 割り稽古（3） 茶碗のふき方、茶巾のたたみ方、茶筌通し、自服					
13~14	愛治庵茶室での学習（1）	お茶室の勉強と感想文を書く。呈茶					
15~16	接客のマナーと実技	講義 お客様に好かれる方法 実技 盆略点前（1） 友達に点てる					
17~18	季節の感じ方と実技	講義 季節を感じる 実技 盆略点前（2） 友達に点てる					
19~20	茶室における着物、メイク、髪形について	講義 プロとして最小限知っておかなければいけないこと 実技 盆略点前（3） 友達に点てる					
21~22	禅語（2）と実技	講義 禅語「歳月不待人」の読み方と意味、裏千家歴代宗匠（2） 実技 盆略点前（4） 友達に点てる					
23~24	愛治庵茶室での学習（2）	お茶会に招かれて 呈茶					
25~26	ビデオ学習（2）	ビデオ「茶の湯自在」 実技 自服					
27~28	国際人としての教養と実技	講義 利休七則の教え、裏千家歴代宗匠（3） 茶道を学んで、新席披露、茶碗の名称、茶の湯英会話、茶の用語抄 実技 盆略点前（5） 友達に点てる					
29~30	禅語（3）筆記の総合復習と実技テスト	講義 禅語「一期一会」の読み方と意味、筆記の復習 実技 テスト（帛紗捌き、棗、茶杓の清め方） 友達に点てる					
到達目標	お茶を通して日本国民としての自覚を持ち、より良い国家形成の担い手になるよう務める。						
評価方法	筆記試験（50％）実技試験（15％）出席日数（35％）の総合評価						
履修上の 注 意	名札、腰ひも、白のソックス、髪を束ねるゴムの用意 授業欠席により、補講の対象となった学生は教材費を実費徴収します。						
参考文献	月刊誌『淡交』『なごみ』 ビデオ『利休の茶』『茶の湯自在』『愛治庵茶席抜き』						

授業科目	伝承美（華道） Traditional Art (Flower Arrangement)						
開講年次	1年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	塩原 久瞳						
テキスト	『花芸安達流演習基礎ノート「水」』 安達瞳子 著、講義中プリント配布						
教育目標 ねらい	人間形成としての精神美の更なる向上をめざし、受ける側（お客様）と与える側との違いのなかでの心配りや気配りがいかに重要課題であるか、身近に植物の生命と接しながら、こころ豊かな人間としての教養と美的感覚を身につけ、自身の役割と責任感を認識できるよう学ぶ。						
授業概要	自然界と人間界のモラルを守り、個のマナーから始まる人間形成を軸に、植物の生命と接しながら、自然のこころと一体となった精神の造形を目指します。 日本の祈りの原点でもある行事や花道史、建築空間での場作り、生活習慣の中で育まれた配色や役割等々を、一般教養として身につけ、総合美の中での精神美を多方面から見つめる講義と実習を通し、美的感覚を向上させる。下記授業計画の項目については、順序が前後する事もある。						
時間外学習	花は五感を刺激し、実習後自宅で再演習する事により「香り」は臭覚、「色や形」は視覚、「花に触れる」触覚、「花揺れの風音」や「花言葉」での対話は聴覚、「ハーブティー」を代表とする味覚等により「癒し」や「パワー」を得られる事で、心身のバランスを整えられる効果が生れる。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	大切なプロセス	マナーとしての挨拶や返答の仕方 授業態度とTPOの服装の大切さについて					
3~4	二つの図	形作りの為の構図を学びより造形物を把握する。					
5~6	素材の要素	造形要素としての線のバリエーションを髪型にどう生かすかを学ぶ。					
7~8	器の挿し口	余白の美がもたらす、髪飾りの動きと分量について。					
9~10	五つの態	植物学から見た花芸の基本の姿を如何に髪型に生かすかを学ぶ。					
11~12	役を定める文法	花芸の枝の役割と名称。行事時の小物のセッティングについて。					
13~14	私の花鉢	技術の三原則と美容との接点を学ぶ。創作器作成					
15~16	植物の体	植物の組成、節理、地理、分類を学ぶ。					
17~18	相互の力関係	花による癒しの効果。空間の三要素と四次元のつりあいについて					
19~20	全体のバランス	結果として力関係が及ぼす美的感覚を養う。					
21~22	造形上の原型	不等辺三角形と古代人の関係から無限の変化を学ぶ。					
23~24	生活芸術として	東洋の修練文化と西洋の理論文化の合体である花芸をいかに建築空間に表現するかを学ぶ。					
25~26	花束作成	襲色目の原点と贈る花への心得や花言葉による人間心理を学ぶ。					
27~28	連花	平安時代の連歌にちなみ、2人以上で一瓶の作品を生け上げることでの連帯と協調性を計る。					
29~30	花手前 or 花寄せ	お客様の前で琴や琵琶などの古代楽器の演奏とともに花を生け、美の熟してゆく流れを共有する。（和服着用のこと）					
到達目標	自身（学生）としての責任とマナーの向上を養う。						
評価方法	1. 出席状況と実習評価（出席 50%） 2. 期末試験（試験 40%） 3. 「ノート」チェック 4. 学苑祭感想文 5. 学習前後の準備と整理 （3. 4. 5 10%）						
履修上の 注 意	資格……花芸安達流入会「水」の証 免状取得可 持参……基礎演習ノート、花鉢、花布、花包（以上4点配布） 色鉛筆（赤、青、緑、黄、黒）、定規、ティッシュペーパーを毎回持参のこと。 授業欠席により、補講の対象学生は教材費を実費徴収します。						
参考文献	『花芸への道』 安達瞳子 著 榊講談社 1982 『花ばさみ』 季刊誌 年4回 花芸安達流社 『道・桜仙抄』 安達瞳子 著 榊六耀社 1994 『花・安達流の花芸』 安達育 著 榊講談社 2005 『花芸 365 日』 安達瞳子 著 榊小学館 1994 『花を生ける（花と美術）』 安達瞳子 著 （社）農文協 2004						

授業科目	美容福祉基礎論 Basic Aesthetics and Welfare						
開講年次	1年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	安藤 理美						
テキスト	『改訂 美容福祉概論』 山野美容芸術短期大学 編 中央法規出版 2009						
教育目標 ねらい	高齢社会におけるこれからの美容は、サロンだけでなく、介護施設や在宅での訪問美容が新しいビジネスとして注目をされている。美容師として、お客様の状態に合わせてサービスを提供できるよう「美容福祉」の基礎的知識・技術を具体的事例・疑似体験等を通じて学ぶ。						
授業概要	高齢者や障がい者に負担の少ない実践場面を想定した基礎的美容施術に役立つ方法について学ぶ。また、介護・介助を受ける立場となった気持ちを理解するため、高齢者や障がい者の疑似体験をする。						
時間外学習	日常生活や美容室など高齢者や障がい者にとって、不自由に感じる場面を授業項目の受講前に考え、受講後に施術を受ける側と実施する側の立場を再確認する。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	美容福祉とは	美容の観点からとらえる					
3~4	美容福祉とは	福祉の観点からとらえる					
5~6	高齢者・障がい者を知る I	認知症とは					
7~8	高齢者・障がい者を知る II	高齢者・障がい者体験（疑似体験グッズ使用）					
9~10	高齢者・障がい者を知る III	車椅子体験と安全な操作について					
11~12	高齢者・障がい者を知る IV	美容室での高齢者・障がい者の対応方法					
13~14	高齢者・障がい者を知る V	高齢者・障がい者にとっての美容					
15~16	訪問美容の現状	訪問美容で提供するサービス内容と効果					
17~18	美容技術 I	車椅子着付け					
19~20	美容技術 II	ベッド上でのシャンプー（ハッピーシャンプー器使用）					
21~22	美容技術 III	ベッド上でのカット（すいこ〜ム使用）					
23~24	美容技術 IV	高齢者・障がい者のメイク					
25~26	リラクゼーション I	香りの効果（アロマセラピーとハーブティー）					
27~28	リラクゼーション II	ハンドとフットケア					
29~30	まとめ・評価	筆記試験					
到達目標	高齢社会における基礎的な美容福祉サービスを提供できる専門職としての知識・技術を養うとともに、使命感、責任感、更に積極的な態度を身につける。						
評価方法	授業態度・出席状況（50%） 筆記試験（50%）						
履修上の 注 意	テキストは資料として使用する場合が多く、自分なりにメモ・ノート等をとること。						
参考文献	『思えば叶う』 山野正義 著 I N通信社 2000 『生きるほどに美しく』 山野正義 著 I N通信社 2003 『YES, YOU CAN』 山野正義 著 I N通信社 2007 『美容福祉概論』 山野美容芸術短期大学 編 中央法規出版 2007						

授業科目	ヘアデザイン I (芸術性) Hairstyle Design I (Artistry)						
開講年次	2年前期	単位	2単位	必選	選択必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	河野 誠二、公文 裕子、ティミー西村 他						
テキスト	『HAIR SCULPTURE LADIES VOLUME I・II』 PIVOT POINT、その他プリント						
教育目標 ねらい	流行に敏速に対応でき、流行を創作できる感性を習得し、リーダーとして美容界に貢献できる人材を育成する。						
授業概要	ヘアスタイリストとしての応用サロンワーク（ヘアカット、ブライダル、メイクアップ）の技術を学ぶ。						
時間外学習							
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2 3~4	ブライダル①	ウエディングの種類					
5~6 7~8	ブライダル②	ファッションコーディネート					
9~10 11~12	ブライダル③	フラワーコーディネート					
13~14 15~16	ブライダル④	トータルコーディネート					
17~18 19~20	メイクアップ①	ミュージカルのメイクアップ					
21~22 23~24	メイクアップ②	パリコレクションのメイクアップ					
25~26 27~28	メイクアップ③	伝統のメイクアップ（歌舞伎又は京劇）					
29~30 31~32	メイクアップ④	撮影のメイクアップ					
33~34 35~36	メイクアップ⑤	ヘアメイク作品撮影練習					
37~38 39~40	メイクアップ⑥	ヘアメイク作品撮影					
41~42 43~44	LEVEL3/LECTURE 1	ソリッドフォーム / ダイアゴナル・フォワード（レザー） 水平線					
45~46 47~48	LECTURE 2	グラデーション / ダイアゴナル・フォワード（レザー） コンビネーション / インクリース グラデーション、バーティカル					
49~50 51~52	LECTURE 3	インクリースレイヤー / 水平線、バーティカル （ノッチング、スライドカット テクニック）					
53~54 55~56	LECTURE 4	コンビネーション / ユニフォーム インクリース					
57~58 59~60	LECTURE 5	コンビネーション / ユニフォーム グラデーション インクリース					
到達目標	サロンワーク応用技術を習得する。						
評価方法	出席状況 授業態度 作品製作						
履修上の 注 意							
参考文献							

授業科目	ヘアデザインⅡ（創造性） Hairstyle DesignⅡ (Creativity)						
開講年次	2年後期	単位	2単位	必選	選択必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	河野 誠二、小野田 光伸 他						
テキスト	『HAIR SCULPTURE LADIES VOLUME I・II』 PIVOT POINT						
教育目標 ねらい	流行に敏速に対応でき、流行を創作できる感性を習得し、リーダーとして美容界に貢献できる人材を育成する。						
授業概要	ヘアスタイリストとしての応用サロンワーク（カットイング、特殊系ヘア、カラー、パーマ）の技術を学ぶ。						
時間外学習							
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2 3~4	シザーテクニック上級①	コンビネーション / ユニフォームレイヤー グラデーション					
5~6 7~8	シザーテクニック上級②	コンビネーション / (クリッパー)					
9~10 11~12	シザーテクニック上級③	TED システム、ストロークカット、エフェクトカット他					
13~14 15~16	シザーテクニック上級④	応用技術					
17~18 19~20	シザーテクニック上級⑤	技術試験					
21~22 23~24	特殊系ヘア技術①	コーンロー、ドレット、バリアート他					
25~26 27~28	特殊系ヘア技術②	応用技術					
29~30 31~32	特殊系ヘア技術③	応用技術					
33~34 35~36	特殊系ヘア技術④	応用技術					
37~38 39~40	サロン・カラーテクニック①	ボタニカル・カラー、ウィービング・テクニック他					
41~42 43~44	サロン・カラーテクニック②	ボタニカル・カラー、ウィービング・テクニック他					
45~46 47~48	サロン・パーマテクニック①	エアウェーブ、デジタルパーマ他					
49~50 51~52	サロン・パーマテクニック②	応用技術					
53~54 55~56	サロン・パーマテクニック③	応用技術					
57~58 59~60	サロン・パーマテクニック④	応用技術					
到達目標	サロンワーク応用技術を習得する。						
評価方法	出席状況 授業態度 技術試験						
履修上の 注 意	※ヘア・メイクアップコース希望者は履修することができない。						
参考文献							

授業科目	メイクアップⅡ Make-upⅡ						
開講年次	2年後期	単位	2単位	必選	選択必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	ティミー西村、時田 真澄 他						
テキスト	『メイクアップⅡ』 公文裕子 著						
教育目標 ねらい	メイクアップⅠで学んだ基礎知識をベースにし、ヘアメイクアップアーティストに必要な必要な気配り、心構えを育み、ショーやステージ等の現場に即した実践的なメイクアップを学ぶ。応用編としてTPOに応じたより高度なメイクアップテクニックを研究練磨する。						
授業概要	モードメイクアップ・シアトリカルメイクアップ・ステージメイクアップ・ブライダルメイクアップ他、各自の感性と創造性を生かした作品研究をし、あらゆる場面や個性に対応出来る技術と共に人間性やマナーも習得する。						
時間外学習	実習授業でのメイクアップ作品をデッサンし、作品写真を添付し提出する。 9月中旬に、配布された化粧品を試し、正しい使用法を理解する。 ファッション誌に目をとおしトレンドを把握する。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2 3~4	ファッションとメイクアップ	ファッションの色による変化や対比効果を研究する。					演習・実習
5~6 7~8	顔の立体研究①	個人個人の顔立ちの違いを研究する。 顔のバランス・骨格・面取り					講義・演習・実習
9~10 11~12	顔の立体研究②	個人個人の顔立ち及び肌色の違いを研究する。 光りと影・肌色研究					講義・演習・実習
13~14 15~16	ステージメイクアップ	役柄によるステージメイクアップを研究する。					講義・演習・実習
17~18 19~20	エイジメイクアップ	高齢者の顔を研究する					講義・演習・実習
21~22 23~24	ブライダルメイクアップ (和装)	和装花嫁のメイクアップを研究する。					講義・演習・実習
25~26 27~28	ブライダルメイクアップ (洋装)	洋装花嫁のメイクアップを研究する。					講義・演習・実習
29~30 31~32	モードメイクアップ①	1930年代のメイクアップを研究する。					講義・実習
33~34 35~36	モードメイクアップ②	1950年代のメイクアップを研究する					講義・実習
37~38 39~40	モードメイクアップ③	1960年代メイクアップを研究する					講義・実習
41~42 43~44	特殊効果	火傷、切り傷、ケロイド等、特殊な撮影に使用するメイクアップを研究する。					講義・演習・実習
45~46 47~48	モードメイクアップ④	現代のモードメイクアップ・ブロンズ肌のメイクアップ					講義・演習・実習
49~50 51~52	メイクアップ作品撮影の練習	ヘア・メイクアップ・ファッションのトータル作品製作の練習					実習
53~54 55~56	メイクアップ作品撮影	ヘア・メイクアップ・ファッションのトータル作品製作と撮影					実習
57~58 59~60	メイクアップ作品撮影	ヘア・メイクアップ・ファッションのトータル作品製作と撮影					実習
到達目標	メイクアップをくり返し学ぶことにより、顔に対する見方が明確になり、様々な個性に対応でき、幅広くTPOに応じたテクニック・創造性や感性を作品を通して学ぶ。						
評価方法	1.出席評価 2.実技テスト 3.作品提出 4.筆記試験 5.人物評価 (授業態度を含む)						
履修上の 注 意	欠席が多いと不可 ※ヘアスタイリストコース希望者は履修することができない。						
参考文献							

授業科目	美容技術指導法 Teaching Methods for Hairstyling						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	選択必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	河野 誠二						
テキスト							
教育目標 ねらい	美容技術は手の技術である。「手わざ」を生かすために科学的な技術分析を加えて“わかち・伝え合う”手法を学ぶ。 学生諸君が美容室に勤務して、やがて後輩を指導する際に役立つ授業にする。						
授業概要	技術指導の作成法、教え方、評価方法の実際と、それらのノウハウを学習する。 一方美容は“接客に始まり接客に終わる”と考えられている。“指導する立場”で「接遇指導法」についても職業教育の一環として探求する。						
時間外学習							
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	Introduction 美容業務とその指導	講義の進め方、美容というサービスについての基本概念について					
3~4	良い接遇サービスとは何か	接遇とは何か……良い接遇・悪い接遇について					
5~6	サービスで大事なマインドのとらえ方	顧客の満足度を高める接遇の重要性と意義について					
7~8	接遇の機能と方法	美容室の仕事における接遇の位置と心がけについて					
9~10	トークとアクションの仕方	良い接遇に相当するトークとアクションの基本事項について					
11~12	美容の仕事进行分析する（教材研究の仕方）	美容室の仕事の流れを分析し、訓練用技能分析表の作成について					
13~14	指導の原理（指導の準備と指導案）	実習指導の原則と指導案の構成について					
15~16	指導案と指導の実際	指導のテクニックと指導上で起こる問題と解決について					
17~18	技術・技能の伝達伝承の基本的問題と戦略的考え方	「手わざ」は、身体の中にめり込んだ知識、技術といえる					
19~20	熟練技術・技能の伝達伝承の方法論	技術・技能を伝達し、伝承するには方法論があり、その方法について					
21~22	美容実習（技術）担当者に求められる資質（能力）	美容技術の担当者の資質とその成長法について					
23~24	学力（＝技術力）中心の能力評価体系	技術指導には評価がとれない、その評価法の実際について					
25~26	実践的な技術指導技法	実際にどのような指導するのか……その方法について					
27~28	技術教授法	美容室など指導の現場を再現し、実践的な指導について					
29~30	指導の発表と評価・まとめ	評価の仕方、改善へのチェックポイントについて					
到達目標	「技術・技能の伝達・伝承」の方法を、ひらめきや感性、創造性といった潜在的能力を生かした技術指導の作成法、教え方、それらのノウハウを身につけることを目標とする。						
評価方法	日常の出席状況、授業への参加度、発表力などで評価する。期末にテストすることもある。						
履修上の注意	学生でありながら、この授業では職業人としての自覚をもって積極的に授業参加すること ※ヘア・メイクアップコース希望者は履修することができない。						
参考文献	随時、プリントを配布する。 指定参考図書 『職場でできる技術・技能伝承マニュアル』 森和夫 著 日本プラントメンテナンス協会 2005 『社員教育研修』 岡村和彦・白井澄 著 総合法令出版 1988						

授業科目	美容のための科学 Applied Science for Hair and Cosmetics						
開講年次	2年前期	単位	1単位	必選	選択必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	内堀 毅、鎌田 正純						
テキスト	なし（必要に応じてプリントを用意する）						
教育目標 ねらい	美容業は基本的に人を対象とした職業である。従って美容師には、毛髪や化粧品知識や知見は不可欠である。そこで、本授業では、まず、毛髪に関する様々な知識を理解することを目標とする。本目標を達成するために、毛髪の基礎から授業を行うが、特に、美容と深い関連がある毛髪の構造や成分など、実社会において活用できる知識の教授を重点的に行う。また、発毛、育毛、パーマメントウェーブ剤、染毛剤、ヘアケア剤などの特許の出願状況なども紹介し、毛髪に関連する製品の研究開発の先端を理解することも目標とする。 さらに、化粧品については化粧品化学で学ぶ内容に加えて、さらに専門的な角度から理解を深めてより高度な知識を修得していただく。また最先端の化粧品の機能やそれらの配合成分について詳しく解説する。						
授業概要	本授業は2部構成とする。前半（1～16回）では、毛髪科学の分野に関する授業を行う。第1回～8回の授業では、基礎知識となる発生・成分・構造・色素についての知識を教授する。第9回～16回目の授業では、化学反応・損傷・診断・研究などの実用性が高い知識を教授する。後半（17～30回）では、化粧品についてより深く理解し、社会に出てから美容分野で活躍するのに相応しい最先端の知識を身につける。第17回～26回の授業では、皮膚に関する化粧品について教授する。第27回～30回の授業では、美を演出する化粧品について教授する。授業内容の理解を深めるために、授業ごとにレポートの提出を行なう。						
時間外学習	予習・準備学習は『物理・化学「化学・化粧品化学」』や『理容・美容保健』にてシラバスに記載事項に関連する内容に関するページを読み、その分野の基本的な知識や内容の把握に努めること。 復習は、講義内容を振り返るとともに、授業内容に基づく課題を3つ程度考え、それについて自らの言葉でノート等に整理しておくこと。また、実生活に活用されているものについては、自宅等にある製品を手に取り、その応用例を確認すること。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1～2	毛髪の発生	毛髪を構成する細胞とその分化および、毛髪の発生から退化に至るヘアサイクルについて講義する。					
3～4	毛髪の成分	毛髪を構成するケラチン、メラニン、脂質、微量金属などの各種成分の化学的な特徴について講義する。					
5～6	毛髪の構造	毛髪の形状による分類、キューティクル、コルテックス、メデュラの構造について講義する。					
7～8	毛髪の色素	メラニンの生成と毛髪色の関係および、ブリーチ剤のメカニズムについて講義する。					
9～10	毛髪の化学	パーマ剤をはじめとするスタイリングに利用する各種の化粧品の機能および、水分の毛髪に与える影響について講義する。					
11～12	毛髪の損傷	毛髪の力学的な特性および、毛髪の化学的または物理的な損傷について講義する。					
13～14	毛髪の診断	美容師が観察することのできる頭皮や毛髪の異常とその対応について講義する。					
15～16	毛髪の研究	発毛や育毛のメカニズムおよび、それに関連する特許の出願状況とその内容について講義する。					
17～18	皮膚と紫外線	紫外線の皮膚への影響について学び、皮膚の光老化、特にシミやシワの発生メカニズムについて理解する。					
19～20	サンスクリーン用化粧品	日焼け防止用の化粧品についての知識を深め、さらに美白用化粧品についても学ぶ。					
21～22	皮膚の保湿メカニズム	皮膚の保湿メカニズムについて理解を深め、化粧品に配合されている様々な保湿剤について学ぶ。					

23~24	清浄用化粧品	皮膚や毛髪を清潔に保つために使用されている化粧品について理解し、その主成分である界面活性剤について詳しく学ぶ。
25~26	ニキビ・肌荒れ防止用化粧品	ニキビや肌荒れを防止するために用いられる化粧品について学び、その配合成分についても理解する。
27~28	爪とネイルエナメル	ネイルエナメルの皮膜形成剤をはじめ溶剤や可塑剤などの働きとそれら成分の性質について理解する。
29~30	香料と芳香用化粧品	香水やオーデコロンに配合される香料について学び、香料の化粧品に果たす役割などについて学ぶ。
<b>到達目標</b>	毛髪に関する知識などについて説明できる力および先端的な情報を収集できる力の修得することを目標とする。化粧品化学で学ぶ内容に加え、さらに化粧品に関する理解を深め、最先端の知識も修得する。	
<b>評価方法</b>	受講態度を含む出席状況、レポートの提出状況および内容により判断する。	
<b>履修上の注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義中のおしゃべりをはじめ、他人の迷惑となる行為は厳禁とする（場合によっては退出を命じるとともに、以後、本授業に参加する権利を剥奪します。）。</li> <li>・美容分野で活躍するためには、本授業の後のスキルにおいても利用できるように、講義内容はノート等にきちんとまとめておくことが重要である。</li> </ul> <p>※ヘア・メイクアップコース希望者は履修することができない。</p>	
<b>参考文献</b>	<p>○毛髪に関する参考文献</p> <p>『毛髪の科学』 クラレンス・R・ロビンス 著 山口真主 訳 フレグランスジャーナル社 2006</p> <p>『最新の毛髪科学』 松崎貴 他著 毛髪科学技術者協会編 フレグランスジャーナル社 2003</p> <p>『毛髪とパーネントウェーブ』 日本パーマネントウェーブ液工業組合技術委員会 編著 新美容出版 1989</p> <p>○化粧品に関する参考文献</p> <p>『コスメトロジー入門』－化粧品の基本知識－ 鈴木守 著 幸書房 1993</p> <p>『化粧品科学』－理論と実際－ 田村健夫・廣田博 著 フレグランスジャーナル社 2001</p> <p>『新化粧品学』 光井武夫 編 南山堂 2001</p> <p>『香料と調香の基本知識』 中島基貴 編著 産業図書 2000</p> <p>『化粧品科学ガイド』 田上八朗・杉本堅次・能崎章輔・宿崎幸一・神田吉弘 著 フレグランスジャーナル社 2007</p>	

授業科目	作品プレゼンテーション Art Work Presentation						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	選択必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	中原 直人、久保村 千明						
テキスト							
教育目標 ねらい	説明責任の果たせる職業人になることを目指す。 自分の考えをまとめて発表することを経験する。 分かりやすく人に説明できる力を養う。						
授業概要	Microsoft PowerPoint を利用して、各自が制作した作品を提示、説明する。 ここでいう作品は、各自が過去に制作した美容作品、美術作品等のなかから選ぶ。						
時間外学習	発表作品によっては、事前の準備が必要になることがある。						
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1～2	オリエンテーション	授業の狙いと概要					
3～4	Power Point 資料作成	発表用資料の作成					
5～6							
7～8							
9～10							
11～12							
13～14							
15～16							
17～18	プレゼンテーション	発表と相互批評					
19～20							
21～22							
23～24							
25～26							
27～28	29～30						
29～30							
到達目標	人前で発表することを体験する。 人の発表を聞き、理解し、フィードバックする姿勢を身につける。						
評価方法	出席 プレゼンテーションの資料、および発表の内容 他人のプレゼンの批評						
履修上の 注 意	※ヘアスタイリストコース希望者は履修することができない。						
参考文献							

授業科目	アクセサリーとファッション Accessories and Fashion						
開講年次	2年前期	単位	1単位	必選	選択必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	多田 牧子、渡辺 聡子						
テキスト	適宜プリントを配布する。						
教育目標 ねらい	絹糸・ワイヤー等の線状材料を用いて、ヘア・アクセサリーの制作を行う。 まず、基本テクニックを習得し、次に応用作品を制作する。 応用作品では、自分のイメージをデッサンし、制作の技術とデザイン・構成を学ぶ。 イメージしたデザイン画を立体的に表現できる能力を養う。 本授業ではヘアショーなどで美容をトータルに表現するためのコスチュームの表現を目的にその基礎を学ぶ						
授業概要	独自のヘアスタイルに合わせたヘア・アクセサリーを計画し制作出来るようにするため、基本的なアクセサリーを作る実習を主に行う。 立体裁断(ドレーピング)は、ボディ(人台)に布を当てピンで留めて洋服のシルエットを表現して型紙を作る方法。作った型紙を整え、それを再びボディに留めつけて形の再確認をする。						
時間外学習	授業内での作品提出がない場合、各自仕上げてから提出する。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	ガイダンス	全体を展望するスライドレクチャー。 リボンを使用する作品制作。					
3~4	作品制作	オーガンジーをしようする作品制作。					
5~6	作品制作	金属糸を用いて、組紐技法を習得する。					
7~8	作品制作	組紐技法の作品を仕上げる。					
9~10	制作計画	1つのスタイルをもとに、装飾品となる毛束の形状をデッサンする。 参考作品の紹介・展示。					
11~12	作品制作	装飾品となる毛束の制作。					
13~14	作品制作	ウィッグに装飾し、発表。デッサン画と合わせて、評価。					
15~16	オリエンテーション ボディについて 衣服のシルエットについて	各自のボディを決め構成ラインを入れる					
17~18	布の扱い方 身頃(上位)の作製①	布の方向性、素材の特徴など デモンストレーション					
19~20	身頃の作製② 身頃の作製③	実習：ボディにトワルを用いてピンワークする。 実習：同上					
21~22	袖の作製① 袖の作製②	デモンストレーション 実習					
23~24	衿の作製① 衿の作製②	デモンストレーション 実習					
25~26	スカートの作製① スカートの作製②	デモンストレーション 実習					
27~28	ワンピースドレスの作製① ワンピースドレスの作製②	デモンストレーション 実習					
29~30	ワンピースドレスの作製③	お互いの作品を評価する					
到達目標	ヘアデザインを活かすヘア・アクセサリーをすみやかにデザイン・制作できる技術を習得する。 自分でイメージした簡単なシルエットが表現できる。ヘアショーなどのコスチュームのフィット性を自分で表現できる。						
評価方法	それぞれの技術による作品、および自由応用作品による評価を行う。						
履修上の 注 意	出席を重視する。その日に行うことを授業の始めに講義するので、遅刻をしないように注意すること。 履修者が30名を超えた場合抽選とする。※ヘアスタイリストコース希望者は履修することができない。						
参考文献	講義の時に必要であれば指示する。						

授業科目	デッサン Drawing						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	実 技
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担 当 者	中原 直人						
テキスト							
教育目標 ね ら い	造形活動の基礎として、正確に見る目と正確に動く手の訓練を行う。						
授業概要	基礎デッサンの実習。						
時間外学習							
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	影絵	影絵細工で人体のフォルムをと捉える					
3~4							
5~6							
7~8	石膏デッサン 1	色紙にコンテ					
9~10							
11~12	石膏デッサン 2	石膏デッサン ブルータス または 聖ジョルジョ					
13~14							
15~16							
17~18							
19~20	静物デッサン	石こう像を含む複数モチーフを組み合わせたデッサン					
21~22							
23~24							
25~26							
27~28							
29~30							
到達目標	客観的な見方ができる 正確に形を捉え、表現することができる						
評価方法	出席 提出物						
履修上の 注 意	白衣着用が望ましい						
参考文献							

授業科目	デザイン Design						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	実 技
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担 当 者	林 美喜						
テキスト	毎回、課題内容および図版のプリント配布。						
教育目標 ね ら い	デザインの基礎を理解し、より自発的に発想し目的に近づくようにする。 又、デザインのプロセスを大事にして制作する。						
授業概要	色々な専門デザインに応用できるような基礎としてデザインベーシックの考え方に根ざして演習を行う。						
時間外学習	身の回りにある色々なモノからデザインされた部分を読み解く癖をつける。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2 3~4	デザインの表現法	イメージの伝達、対比される言葉のイメージを平面に表現する					
5~6	デザインの訓練法	言葉によるイメージ展開、形によるイメージ展開					
7~8 9~10	平面構成1 一色と面積	条件に沿った表現と構図、					
11~12 13~14	平面構成2 Tシャツのデザイン	自然形態からのデザイン抽出と便化					
15~16	立体デザイン1	パッケージデザイン ショップカードデザインなどへの応用					
17~18 19~20 21~22	立体デザイン2	紙立体による対比イメージ					
23~24 25~26 27~28 29~30	デザインの実際ーサロンインテリア	平面図と立体図表現 コンセプトボード制作					
到達目標	美容行為をふまえた、デザインコミュニケーション能力の向上を図る。						
評価方法	1.出席状況 2.集中度 3.作品 の総合評価						
履修上の 注 意							
参考文献							

授業科目	<b>絵画</b> <b>Painting</b>						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	実 技
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担 当 者	栗本 佳典						
テキスト							
教育目標 ね ら い	デッサンでは対象物の形の全体を把握する見方をより深める。 アクリル画では色の調和と絵具の混合による色彩表現の訓練を行う。 人物画に力を入れ、人体のプロポーシオンや人体の美について感覚を深め、表現力を養う。						
授業概要	石膏デッサンから人体の描写および表現						
時間外学習	授業以外でも、雑誌の人物や簡単な静物をデッサンすると観察力や描写力を、よりレベルアップできる。						
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1~2	石膏像クロッキー	大形胸像の描写					
3~4							
5~6	人物クロッキー	人物を短時間で描写する					
7~8	顔のパーツのデッサン	目や眉などを正確に描く					
9~10	自画像色鉛筆デッサン	自分の顔を色鉛筆で描く（B4ボード）					
11~12							
13~14							
15~16	名画の人物描写	名画に描かれた人物を描写する（B3ボード） （F8号キャンバスボード）					
17~18							
19~20							
21~22							
23~24	自画像自由表現	セルフポートレイトを基にアクリル絵具で描く（F10号キャンバス）					
25~26							
27~28							
29~30							
到達目標	デッサン力と色彩の調和を身につけ表現力を養う。						
評価方法	提出作品と出席						
履修上の 注 意	受講希望者が定員数を超えた場合は、『美容のための美術』の成績で選考する。						
参考文献							

授業科目	立体アート Three Dimensional Art						
開講年次	2年前期	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	実 技
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担 当 者	大須賀 万里子						
テキスト	実技毎に資料、プリント配布						
教育目標 ね ら い	美容は人体を素材とする立体造形である。立体造形は、素材により制作の方法が異なり、作品の効果も異なる。立体アートでは、複数の素材を体験し、形と素材のかかわり方や制作法を理解していく。これらの体験を通し、造形の表現力、創造力を豊かにし、美容作品創作に反映させたい。また、ビデオ・スライドによる作品鑑賞を行い制作に応用すると共に美的感性や教養を養う。						
授業概要	美容関連素材としても使用される石膏や粘土等を用い課題制作をおこなう。 さらに現代に影響を与えている作家・作品・アート様式を取り上げ鑑賞し、それらの美的表現、作家の思いや意図、作品の素材加工法を理解し美容とのかかわり等考慮、制作に応用し役立てる。 教材はその都度配布する。						
時間外学習	美術や美容に関する本、雑誌、DVD、テレビ、新聞など目を通しておくこと。 美術館や博物館、展覧会等に行くこと。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	イマジネーションと造形	作品鑑賞・解説など					
3~4		「仮面Ⅰ」 アイディアデッサン、色彩計画					
5~6		素材の地塗り、彩色					
7~8		素材の装飾など彩色 完成へ					
9~10		「仮面Ⅱ」 アイディアデッサン、素材加工					
11~12		粘土制作					
13~14		彩色、装飾品等 完成へ					
15~16	イメージと造形	「サロンのミニ看板」 作品鑑賞・解説					
17~18		石膏の流し込み準備、流し込み					
19~20		看板の字、形等のアイディアデッサンとデザイン					
21~22		石膏の型取り・レリーフ制作 完成へ					
23~24		「サロンのインテリアミニオブジェ」 解説					
25~26		形と色のデザイン計画、立体制作					
27~28		立体制作、仕上げ彩色など					
29~30	完成・批評会						
到達目標	形体・色彩・素材の関連を立体制作の体験をとおり理解・美容作品に応用する						
評価方法	制作過程・出席状況・課題作品提出等の総合評価。						
履修上の 注 意	制作スペースの都合上、1クラス40名以内とする。 授業の進行状況により内容や順序が変更になる場合がある。						
参考文献							

授業科目	コンピュータグラフィックス Computer Graphics						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	演 習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担 当 者	中原 直人						
テキスト	必要に応じてプリント配布						
教育目標 ね ら い	CGを画材の1つと考え、デジタル画像の利点と欠点をふまえた上で作品を制作し、創造力、表現力を育てる。						
授業概要	デジタル画像処理の基礎知識、利点と限界、映画や広告などの現場の現状などについて解説する。 Photoshop Elements を利用した、デジタル画像処理の基本技術を学ぶ。 アイディアスケッチから作品完成、発表の過程を通して、創造力と表現力を養う。						
時間外学習	授業の進度により、放課後等に自分のPCや学内のPCでの作業が必要になる可能性がある。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	デジタルカメラの基礎	デジタルカメラの使い方、よりよい撮影法について					
3~4	共同制作 美容室のチラシ	デザイン現場のシミュレーションを行いつつ、チラシを作成する					
5~6							
7~8							
9~10	Photoshop Elements の基礎技術	デジタルメイクを行いつつ、Photoshop の基礎技術を身につける					
11~12							
13~14							
15~16	習作 ダイレクトメール	美容室のダイレクトメールを作成する					
17~18							
19~20							
21~22							
23~24	制作 ブランディングと商品パッケージ	オリジナルブランドを立ち上げ、商品展開を行う					
25~26							
27~28							
29~30							
到達目標	自らの意図をCG作品として造形表現できること						
評価方法	提出物、出席						
履修上の 注 意	自分のデジタルカメラやコンピューターがあるとよい						
参考文献	『標準デジカメ撮影講座』 久門易 著 翔泳社 2005 その他、Photoshop 解説本、デジカメ技法書などを読んでおくとよい						

授業科目	美術鑑賞 Appreciation of Art						
開講年次	2年前期	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	講 義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担 当 者	澤村 英子						
テキスト	プリント配布						
教育目標 ね ら い	古代から近世までの世界美術通史。各時代の絵画、彫刻、工芸の作品や作家を通して、美術の成り立ちと特色を考える。 毎週多くの美術品を映像資料等により鑑賞し、世界の美術に親しむ方法を学ぶ。						
授業概要	西洋・日本・東洋の各美術の諸問題を、時代を追ってわかりやすく解説し、映像を通して鑑賞する。						
時間外学習	美術展や展覧会での芸術鑑賞など積極的な活動を望む。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	西洋美術 (I)	エジプト・メソポタミアとギリシア・ローマ					
3~4	西洋美術 (II)	初期キリスト教とビザンティン美術					
5~6	西洋美術 (III)	ロマネスクとバロック美術					
7~8	西洋美術 (IV)	ルネサンス美術					
9~10	西洋美術 (V)	バロックとロココ美術					
11~12	西洋美術 (VI)	新古典主義とロマン派					
13~14	西洋美術 (VII)	印象派					
15~16	日本美術 (I)	原始～平安					
17~18	日本美術 (II)	鎌倉～室町					
19~20	日本美術 (III)	桃山～江戸①					
21~22	日本美術 (IV)	江戸②					
23~24	学外授業 (見学)	美術館・博物館での美術および工芸品の鑑賞					
25~26							
27~28							
29~30	まとめ	レポート					
到達目標	西洋および日本・東洋の美術鑑賞を通して、美術品のみならず、各国・各時代の社会背景までも考察できるようにする。						
評価方法	1. 出席状況 2. レポート						
履修上の 注 意							
参考文献	授業中に指示する						

授業科目	染織デザイン Textile Design						
開講年次	1年後期	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	演 習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担 当 者	澤村 英子						
テキスト	プリント配布						
教育目標 ね ら い	工芸美術としての「染・織」について、美学的立場から解説し、伝統工芸の一翼を担う“布の造形美”について探求する。						
授業概要	「染・織」の各分野について、それぞれの歴史を辿り、様々な問題点を明らかにする。特に染織品に施された装飾文様の数々について、映像資料を多く用いて分かりやすく解説していく。そして身近な問題として伝統工芸の今日的意義と将来性を考察することによって、それらに親しむ方法を学ぶ。						
時間外学習	美術展や伝統工芸展での染織芸術品の鑑賞など、積極的な活動を望む。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1	はじめに	布の文化について					
2~3	「染・織・繡」1	「染める」「織る」「刺繡」の歴史・技法と造形性①					
4~5	「染・織・繡」2	「染める」「織る」「刺繡」の歴史・技法と造形性②					
6~7	「染・織・繡」3	「染める」「織る」「刺繡」の歴史・技法と造形性③					
8~9	「染・織・繡」4	「染める」「織る」「刺繡」の歴史・技法と造形性④					
10~11	テキスタイル（染織）デザイン演習1	作品研究と鑑賞①					
12~13	テキスタイル（染織）デザイン演習2	作品研究と鑑賞②					
14~15	テキスタイル（染織）デザイン演習3	作品研究と鑑賞③					
16~17	テキスタイル（染織）デザイン演習4	作品研究と鑑賞④					
18~19	テキスタイル（染織）デザイン演習5	作品研究と鑑賞⑤					
20~21	テキスタイル（染織）デザイン演習6	作品研究と鑑賞⑥					
22~23	テキスタイル（染織）デザイン演習7	作品研究と鑑賞⑦					
24~25	学外授業（見学）	染織工房や美術館など					
26~27							
28~29							
30	まとめ						
到達目標	伝統工芸・伝統文化に親しむ方法を身につけさせる						
評価方法	出席状況・レポート・作品などにより総合的に評価する。						
履修上の 注 意							
参考文献							

授業科目	スポーツエクササイズ Sports						
開講年次	1年前期	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	演 習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担 当 者	早川 洋子						
テキスト							
教育目標 ね ら い	運動やスポーツの技術および知識等を習得すると同時に各個人の体力の保持・増進を図ることを目的とする。また、仲間との交流をとおして、運動やスポーツの楽しさ、面白さ、参加の意義や価値観を見出し、またコンディショニングとしてマッサージなどの疲労回復法を学び、将来健康で快適な社会生活の確保や生涯スポーツのステップとなるよう学習をすすめていく。また運動を通してスポーツマンシップやマナー・ルールの習得を目指す。						
授業概要	体ほぐしや各種ボールゲームを中心に授業をすすめていく。 各種目について基本的な技術や初歩的な動き、フォーメーション等を学習、マスターしたのちゲームを展開していく。						
時間外学習	家でも出来る運動やストレッチングなどは、日常的に実践してください。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	オリエンテーション 運動・スポーツの必要性	ガイダンス、健康状態の確認 他					
3~4	ドッチボール1	ボール慣れ、ゲーム					
5~6	縄跳び、ドッチボール2	縄になれる（綾とび、二重回し）/ボール慣れ、ゲーム					
7~8	バスケットボール1、マッサージ	パス、ドリブル、ゲーム/腕のマッサージ					
9~10	大縄跳び、バスケットボール2	大縄になれる（体育祭必勝法！）/パス、サーブ、ゲーム					
11~12	ソフトバレーボール	パス、サーブ、ゲーム					
13~14	バレーボール1	パス、サーブ・レシーブ、ゲーム					
15~16	バレーボール2、マッサージ	パス、サーブ・レシーブ、スパイク、ゲーム/肩のマッサージ					
17~18	縄跳び、ユニホッケー	縄になれる（綾とび、二重回し）/ボールやスティック操作に慣れる、ゲーム					
19~20	バドミントン1	サービス、ストローク、ゲーム					
21~22	バドミントン2	サービス、ストローク、スマッシュ、ゲーム					
23~24	大縄跳び、卓球、マッサージ	大縄になれる（チームワークの形成）/サーブ・レシーブ、ゲーム /脚のマッサージ					
25~26	卓球、ユニホッケー	ゲーム					
27~28	バスケットボール3 またはユニホッケー	パス、ドリブル、ゲーム/ゲーム					
29~30	まとめ						
到達目標	スポーツをすること自体を楽しみとし、公正なプレーを尊重し、相手の選手に対する尊敬や賞賛、同じスポーツを競技する仲間としての意識をもって行われる活動であるという姿勢となって表すことが出来る。 スポーツマンシップやマナー・ルールの習得を目指す（協調性、責任感、さらに自主的、生活態度の育成を図る）						
評価方法	出席状況 60% 授業への取り組み・態度 10% 簡単なレポート課題による評価 30%						
履修上の 注 意	受講者の構成、技術等を考慮して実施すること。 天候や学校行事等により場所や種目を変更する場合も有る。 服装他、詳細については初回の授業で説明する。 授業の秩序を乱すものは、単位の認定を行わないことがあるので注意すること。 *特に授業中の化粧、私語、無断外出は厳禁 ※履修方法についてはオリエンテーション時の説明をよく聞くこと。 ※定員は30名 1回目の授業で抽選をおこなう。						
参考文献							

授業科目	憲法と法学 Japanese Constitution and Law						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	講 義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	村田 明彦						
テキスト	レジュメを配布						
教育目標 ねらい	<p>大学卒業後、社会人として、社会のルールに従って行動することが求められる。この社会のルールの一つが法律であるところ、この法律を知らない、または法制度に対する理解がない場合、社会で重大な不利益を受ける恐れがある。社会に出てビジネスに関わっていく場合（美容師として起業する場合に限らず、一般企業に入社する場合も含む）、一般消費者の立場とは異なり、法律を「知らなかった」では済まされない。</p> <p>この講義では、我が国の法制度の根幹を学び、また、社会に出た後不利益を被らないように最低限理解しておくべき基礎的法律知識を身につけてもらうことを目標とする。</p> <p>また、講師の弁護士としての経験に基づき、社会で実際にどのようなトラブルが生じるのかを具体的事例を取り上げて解説する。</p>						
授業概要	法律を身近なものにするため、具体的事例に基づいて講義を行う。						
時間外学習	授業において、現在問題になっているニュース等を取り上げて、話しをすることがあるので、新聞、ニュース等に注意しておくこと。また、講義で話した内容については、復習しておくこと。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	社会規範としての法の目的、役割	法の成立とその発展					
3~4	法と道徳	法規範と道徳との関係					
5~6	日本国憲法の原理	憲法とは何か。最高法規性、授権規範性、制限規範性					
7~8	平和憲法―戦争の放棄	第9条と平和憲法への変遷					
9~10	基本的人権	わが国憲法における基本的人権の尊重とは					
11~12	憲法の現代的意味、憲法改正	憲法改正論議について					
13~14	取引を行う主体	個人の能力の種類、法人（株式会社）の仕組					
15~16	契約とは何か	契約の種類、契約の成立に関する諸原則					
17~18	契約の効力	契約の拘束力、契約不履行の場合の不利益					
19~20	契約書の必要性	なぜ契約書を作成するのか、契約書はどのようにして作成すればよいのか					
21~22	手形・小切手	手形・小切手は何のために存在するのか					
23~24	財産の管理	財産の管理方法					
25~26	債権の回収	債権をどのように回収するか、担保の重要性					
27~28	企業活動における法規制	契約に関し、どのような規制がなされているのか					
29~30	労働法	会社と従業員の関係					
到達目標	日本国民としてその最高法規である憲法を理解し、日本の法規範の基本的な事項を身につける。						
評価方法	受講の状況とレポートによる						
履修上の 注 意							
参考文献	『ポケット六法』 有斐閣 2009						

授業科目	サロン英語コミュニケーション Salon English Communication						
開講年次	1年通年	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	演 習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担 当 者	John Parker						
テキスト	English For Hairstylists						
教育目標 ね ら い	Aim - The goal of the class is to help students improve their English communication skills and develop a better understanding of how to communicate in a positive way. Our focus will be on the language typically used in a hair salon - communication between a hairstylist and customer						
授業概要	Summary - In this class we will focus on positive communication. We will act out various role-play or real language situations based in a salon setting. All role-play activities will be done as pair work or directly with the teacher.						
時間外学習	After class work: Study the vocabulary, pronunciation and cultural link section in each unit.						
授 業 計 画							
回	項 目			内 容			
1	Introduction / Motivation worksheet			Group discussion / Motivation activity			
2	Unit 1: Greetings and Introducing yourself			Unit Introduction / Drill and practice vocabulary and target language			
3	Unit 2: Names / Addresses / Phone numbers			Unit Introduction / Drill and practice vocabulary and target language			
4	Pair Presentation (Role-play) Practice			Create original dialog in pairs			
5	Pair Presentation (Role-play) #1			In-salon pair presentation - <b>Customer information</b>			
6	Business hours and appointments			Unit Introduction / Drill and practice vocabulary and target language			
7	Business hours and appointments			Pair practice			
8	Pair Presentation (Role-play) Practice			Create original dialog in pairs			
9	Pair Presentation (Role-play) Practice			Create original dialog in pairs			
10	Pair Presentation (Role-play) #2			Telephone pair presentation - <b>Taking appointments</b>			
11	The Learning Channel Special Documentary			Hairdressing episode / Prive' Salon in Beverly Hills			
12	Hair condition			Drill and practice vocabulary and target language / Hair condition group activity			
13	Complimenting / Small Talk			Pair and group practice			
14	What do you want to say #1			Preparation for Study abroad program in Paris and London			
15	What do you want to say #2			Preparation for Study abroad program in Paris and London			
16	Asking haircut questions			Drill and practice vocabulary and target language dealing with haircutting			
17	Asking haircut questions			Pair practice - haircutting			
18	Pair Presentation (Role-play) Practice			Create original dialog in pairs			
19	Pair Presentation (Role-play) Practice			Create original dialog in pairs			
20	Pair Presentation (Role-play) #3			In-salon pair presentation - <b>Haircutting</b>			
21	Perming			Drill and practice vocabulary and target language pertaining to perming			
22	Perming			Pair practice - perming			
23	Coloring			Drill and practice vocabulary and target language pertaining to hair coloring			
24	Coloring			Pair practice - hair coloring			

25	Final presentation (role-play) introduction	
26	Final presentation (role-play) practice	
27	Final presentation (role-play) practice	
28	Final presentation (role-play) practice	
29	Final pair presentation (role-play)	<b>Telephone</b> conversation pair presentation (role-play)
30	Final pair presentation (role-play)	<b>In-salon</b> and pair presentation (role-play)
到達目標	外国人との英会話に慣れ、卒業後のキャリアに英会話力を生かせるようになること。	
評価方法	1. ペアワーク、ロールプレイ、発表など、授業中の演習 出席状況と参加意欲	
履修上の 注 意	積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。	
参考文献		

授業科目	ネイルアート Nail Art						
開講年次	1年後期	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	実 技
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担 当 者	木村 安気子						
テキスト	『改訂2版 ネイル・プロフェッショナル』 インターナショナルネイルアソシエーション編 著 インターメディカル 2003						
教育目標 ね ら い	ネイルアートはトータルファッション、全身美容の最後のお洒落である。 本科目では、付け爪とネイルアートに必要な基礎知識と応用技術を学び、狭い限られた空間上にはいかに効果的に表現していくかを勉強してもらう。						
授業概要	付け爪の装着方法とネイルアートの基礎知識、ポリッシュデザイン、ペインティング、スリーディネイルアートなどを教授します。						
時間外学習	スカルプチュアネイルはPハンドを使って週に5本程度は復習すること。 ネイルアートはテーマを決めて5本単位で練習することが大切。						
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1~2	スカルプチュア	スカルプチュア技術の基礎知識と技術展示					
3~4	スカルプチュア	スカルプチュアの実習					
5~6	スカルプチュア	スカルプチュアの実習					
7~8	スカルプチュア	スカルプチュアの実習・リペア方法					
9~10	スカルプチュア	スカルプチュアの実習・リペア方法					
11~12	スカルプチュア	スカルプチュアの実習・リペア方法					
13~14	スリーディネイルアート	エンボス、スリーディ展示					
15~16	スリーディネイルアート	エンボス、スリーディ他実習					
17~18	スリーディネイルアート	エンボス、スリーディ他実習					
19~20	ネイルペインティング	ネイルペインティング展示					
21~22	ネイルペインティング	ネイルペインティング実習					
23~24	ポリッシュデザイン	マーブル、フレンチネイル展示、実践					
25~26	ポリッシュデザイン	マーブル、フレンチネイル実習					
27~28	ネイルアート実技テスト	テーマにあわせて製作					
29~30	ネイルアート試験	ネイルの基礎知識を確認する為にテストを実施					
到達目標	付け爪、ネイルアートの様々な技術を習得、テーマに合わせた作品が作れるようにする						
評価方法	1. 出席状況 2. ネイルアート作品の提出 3. 期末にテストを実施、評価する						
履修上の 注 意	1. 授業への出席状況と受講態度を重視 2. 絵画の鑑賞をすることが望ましい						
参考文献	『ネイルのお仕事』 木村安気子 著 実業之日本社 2007						

授業科目	コミュニケーションスキル Communication Skills						
開講年次	1年前期	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	演 習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	鈴木 一成						
テキスト	『即興・インプロ』 鈴木一成 著						
教育目標 ねらい	自分、そして他人の個性を生かし、『受け入れる』をキーワードに接客業につながるコミュニケーション能力を磨く。						
授業概要	ゲーム、実践を通して受け身ではなく体を動かし、楽しみながらコミュニケーションの本質を体験していく。						
時間外学習							
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	連帯感 UP	お互いを知り、信頼関係の構築					
3~4	連帯感 UP	お互いを知り、信頼関係の構築					
5~6	積極性 UP・協調性 UP・観察力 UP	自分、他人、集団を意識して共同作業					
7~8	積極性 UP・協調性 UP・観察力 UP	自分、他人、集団を意識して共同作業					
9~10	積極性 UP・協調性 UP・観察力 UP	自分、他人、集団を意識して共同作業					
11~12	積極性 UP・協調性 UP・観察力 UP	共同作業をする上での自己責任を認識し仲間への感謝					
13~14	積極性 UP・協調性 UP・観察力 UP	共同作業をする上での自己責任を認識し仲間への感謝					
15~16	積極性 UP・協調性 UP・観察力 UP	共同作業をする上での自己責任を認識し仲間への感謝					
17~18	想像力 UP・企画力 UP	信頼関係をもとに自由な発想と創造					
19~20	想像力 UP・企画力 UP	信頼関係をもとに自由な発想と創造					
21~22	想像力 UP・企画力 UP	信頼関係をもとに自由な発想と創造					
23~24	想像力 UP・企画力 UP	信頼関係をもとに自由な発想と創造					
25~26	ゲーム会得の確認	学んだことを生かし即興で短い芝居					
27~28	ゲーム会得の確認	学んだことを生かし即興で短い芝居					
29~30	ゲーム会得の確認	学んだことを生かし即興で短い芝居					
到達目標	コミュニケーションは人と心がつながること。そのために目、耳、口、そして手や身体があるということを理解し実践出来るようにする。 NO ではなく YES から始まるコミュニケーションを目指す。 その上で、相手が何を欲しているかを把握して自主的に手を差し伸べられるチームワークを築き上げる。						
評価方法	出席日数と授業態度						
履修上の 注 意	身体を動かし寝転んだりするので動きやすい格好と上履きを用意						
参考文献							

授業科目	パーソナルカラー Personal Color						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	演 習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担 当 者	高橋 映子、山本 絵理						
テキスト							
教育目標 ね ら い	その人に似合う色を診断し、アドバイスするパーソナルカラーリストとして、カラー診断に必要な理論を学び、アドバイスするための資料を作成する。また、実際に実技でカラー診断をして似合うファッションやメイクのアドバイスができるように学ぶ。						
授業概要	肌の色、眼の色、髪の色を4パターンに分けたフォーシーズンパーソナルカラーを、配色カードや雑誌の切り抜きなどによって理解を深め、ドレープを使って実際にカラー診断の手順と診断方法を学び、その人に似合う色のアドバイスができるように学習する。						
時間外学習							
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	パーソナルカラーって何？ スキンチェック	パーソナルカラーの重要性／肌を2通りに分ける（クール、ウォーム）					
3~4	キャラクターの話 主観色の話	キャラクターと主観色から見た4パターン（フォーシーズン）					
5~6	パーソナルカラーの分け方	フォーシーズンカラーそれぞれのイメージ					
7~8	コスメティックス、 ファッションの切り抜き作成	ファッション等、切り抜きの集め方、ボードに作成の仕方					
9~10	ビジネスツールの説明 パーソナルカラー診断の手順	ドレープ、スウォッチの説明／カルテの書き方／プレゼンしながら説明					
11~12	ゴールド&シルバードレープの見分け方 スキンチェック、キャラクターチェック、素顔の見分け方	実際にチェックしてみる					
13~14	主観色の見分け方 一応の判断のつけ方とボードのアドバイスの方法	主観色をチェックし、今までのチェックから仮の判断をつける／アドバイスの仕方					
15~16	ドレーピングの実習	実際にドレープを使って、ドレープのきり方の練習					
17~18	ドレーピングの実習	実際にドレープを使って、ドレープのきり方の練習					
19~20	フォーシーズンカラーメイクアップ メイクデザイン画作成	コスメティックスの色の分け方／フォーシーズン別メイクデザイン画作成					
21~22	メイク実習	パーソナルカラーでメイクをしてみる					
23~24	メイク実習 写真の撮り方	パーソナルカラーでメイクをしてみる／写真の撮り方					
25~26	パーソナルカラー診断実習	実際にパーソナルカラー診断をしてみる（カルテ記入～最後まで）					
27~28	診断後のアフターフォローについて	カルテのファイリング、アドバイスシートの作成、ボードやスウォッチを使っているアドバイス					
29~30	カラーリストとして 認定テスト	カラーリストとしての心構えとビジネス展開／実技テスト					
到達目標	パーソナルカラーを理解し、パーソナルカラー診断ができるようになる。						
評価方法	出席状況、提出物、実技チェックの総合評価						
履修上の 注 意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山野認定パーソナルカラーアナリストの資格を取得するには、別途、ドレープ等の購入費が必要となります。</li> <li>・色彩学の単位を優秀な成績で取得すること。</li> <li>・定員を40名とし、希望者が定員数を超えた場合は、色彩学の成績で選考します。</li> </ul>						
参考文献	Infinity-colors のテキスト参照						

授業科目	美容心理学 Psychology of Aesthetics						
開講年次	1年後期	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	講 義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	五十嵐 靖博						
テキスト	『美容師とビューティスタッフのための心理学』 五十嵐靖博・高島直子 編 新曜社 2010						
教育目標 ねらい	心理学は生活体の心と行動を科学的に研究する学問である。心理学が明らかにした知見は美容を含む様々な実際の場面に適用され、日常生活の福祉の向上のために活用されている。本科目では、基礎分野から応用分野にわたる心理学の知見のうち、特に美容に関連する事項について理解を深めたい。						
授業概要	心理学は日常の行動から美容に関連する諸行動まで、生活と深く関わっている。知覚やパーソナリティ、心の健康、社会的行動などの基礎的過程を説明し、美容関連行動について検討する。						
時間外学習	予習復習を十分に行うこと。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	心理学と美容	心理学とは何か、心理学からみた美容行動					
3~4	知覚と美容Ⅰ	眼の構造、錯視、多義図形					
5~6	知覚と美容Ⅱ	図と地、化粧と知覚					
7~8	自己	自己概念と美容行動					
9~10	心の健康と美容：ストレス	ストレスと心の健康					
11~12	心の健康と美容：心身症	心の状態と身体の病気					
13~14	心の健康と美容：こころの病Ⅰ	不安障害について（１）					
15~16	心の健康と美容：こころの病Ⅱ	不安障害について（２）					
17~18	心の健康と美容：こころの病Ⅲ	うつ病と統合失調症について					
19~20	心の健康と美容：こころの病Ⅳ	摂食障害とその他のこころの病について					
21~22	エステティックの心理的効果	心的効果とその測定					
23~24	よそおいの心理学Ⅰ	ひとはなぜ、いつよそおう（装う・粧う）のか					
25~26	よそおいの心理学Ⅱ	自己概念とよそおい					
27~28	小集団と行動	同調、説得、社会的役割					
29~30	まとめ	美容行動の心理学をめざして					
到達目標	心理学の基本的知見を理解し、美容に関連する行動を心理学的にとらえる視点を培う。						
評価方法	期末試験を行い評価する。 出席状況（規定時間数以上の出席を原則とする）。						
履修上の 注 意	受講態度を重視する。 特に出席状況に注意すること。						
参考文献	『化粧行動の社会心理学』 大坊郁夫 編 北大路書房 2001 『美容師のためのカウンセリング』 山野美容心理学研究会 著 ナカニシヤ出版 2009 『自分のこころからよむ臨床心理学入門』 丹野義彦・坂本真士 著 東京大学出版会 2001 『よくわかる臨床心理学』 下山晴彦 編 ミネルヴァ書房 2003						

授業科目	美容のためのカウンセリング Counseling for Hairstylists						
開講年次	1年前期	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	演 習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	高島 直子、五十嵐 靖博						
テキスト	『美容師のためのカウンセリング』 山野美容心理学研究会 著 ナカニシヤ出版 2009						
教育目標 ねらい	美容師が必要とする対人コミュニケーションスキルの習得を目標とする。そのために、まず心理テストやワークを通じて、自己を正しく理解することが求められている。自分の考え方や行動のパターンを客観的に把握することによって、サロンにおいて顧客とのコミュニケーションに活かすことができる。次に、カウンセリング理論をもとにした対人コミュニケーションスキルを習得する。さらに、日常生活からサロンにおける様々な場面設定をしたロールプレイングを行うことによって、カウンセリングを体験し、実践へとつなげる。						
授業概要	美容師のためのカウンセリングとは何か？その基礎から実践までを説明する。 ワークや心理テストを通して、自己理解と他者理解を試みる。美容とカウンセリングとの関係について考え、美容のプロフェッショナルとして、顧客やスタッフとの好ましい人間関係を形成するために役に立つ対人コミュニケーションスキルを習得する。						
時間外学習	カウンセリングのスキルを習得するために、十分に復習を行うこと。						
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1~2	オリエンテーション	授業の進め方。美容におけるカウンセリングの必要性					
3~4	美容師の自己理解（1）	自己理解とは？美容師が自分を知ることの大切さ（20 答法）					
5~6	美容師の自己理解（2）	心理テストやワークを通じて自己理解を試みる（エゴグラム）					
7~8	美容とカウンセリング（1）	カウンセリングの定義と理論、美容とカウンセリングの関係、カウンセリングのレベル					
9~10	美容とカウンセリング（2）	美容室におけるカウンセリングのプロセス					
11~12	カウンセリングの理論	美容に活かす自己理論と来談者中心療法					
13~14	カウンセリングの技法（1）	かかわり行動：美容室でクライアントとかわる					
15~16	カウンセリングの技法（2）	質問技法：美容室でクライアントのニーズをきく					
17~18	カウンセリングの技法（3）	応答技法1（理解およびワーク）：美容師の考えを伝える					
19~20	カウンセリングの技法（4）	応答技法2（理解およびワーク）：美容師の考えを伝える					
21~22	カウンセリングの技法（5）	美容に活かすカウンセリング技法の紙上練習					
23~24	ロールプレイング	ロールプレイング（理解およびワーク）					
25~26	カウンセリングの事例	美容師がである事例を通して、様々なカウンセリングの理論を理解する。					
27~28	心理療法の体験	コラージュ療法					
29~30	まとめ	授業の振り返り					
到達目標	1. 美容師である自己をたたく理解し、クライアントとのコミュニケーションにおいて実践する。 2. 美容のプロフェッショナルとして、好ましい対人コミュニケーションスキルを習得し、実践する。						
評価方法	1. 出席状況（規定時間数以上の出席が原則） 2. 授業中の態度（ワークへの参加態度など） 3. ワークの課題提出（内容と提出状況） 4. 小テスト 5. 期末試験						
履修上の 注 意	1. 出席状況に注意すること。特に受講態度を重視する。 2. ワークへの意欲的な参加を求める。						
参考文献	『カウンセリング技法入門』 玉瀬浩司 著 教育出版 1998 『心理学マニュアル面接法』 保坂亨・中澤潤・小野木裕明 編著 北大路書房 2000 『カウンセリングへの招待』 滝本孝雄 著 サイエンス社 2006 『図解 自分の気持ちをきちんと伝える技術』 平木典子 著 PHP 研究所 2007 『健康心理学がとってもよくわかる本』 野口京子 著 東京書店 2008						

授業科目	美容室情報処理実習 Data Processing for Beauty Salons						
開講年次	1年通年	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	演 習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	久保村 千明						
テキスト	教員が作成した教材をテキストとして配布する。						
教育目標 ね ら い	洗練された社会人として、さらには、情報化社会において一步先を行く美容師になるためには、情報の収集・加工・蓄積とともに、新たな情報の生成・発信についてのより深い見識が求められる。本授業では、このような知見に基づき、書類作成・インターネットを活用することのできる素養と知識とを多角的に身に付けることを目指す。先進的美容師に今後求められるであろう見識と教養も身に付けることを目指す。						
授業概要	高校までに身に付けているであろうコンピュータリテラシーをあらためて復習するところからはじめる。具体的には、タイピング、Wordによる文書作成、Excelによる表計算等の練習から始め、その後、Flashによるアニメーション作品作成を行う。さらには、これらの諸技術を駆使して作成した作品等をインターネットで発信するために、Web ページ作成の基礎、アニメーション付き Web ページの作成を行う。						
時間外学習	予習は特に必要としない。学習した内容を実践しようとする意識を持つことが重要である。						
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1~2	オリエンテーション	授業の概要の説明および簡単な文書入力					
3~4	文書作成練習 (No 1)	表を中心とした文書作成					
5~6	文書作成練習 (No 2)	表・挿絵を含む文書作成					
7~8	文書作成練習 (No 3)	図表を含む文書作成					
9~10	表計算練習 (No 1)	数式と簡単な関数を利用した表計算					
11~12	表計算練習 (No 2)	固定アドレスを利用した表計算					
13~14	総合演習 (No 1)	文書・資料作成の総合練習					
15~16	総合演習 (No 2)	文書・資料作成の総合練習					
17~18	アニメーション作成 (No 1)	パラパラマンガの作成					
19~20	アニメーション作成 (No 2)	複雑な軌跡に沿った動きのあるアニメーションの作成					
21~22	アニメーション作成 (No 3)	レイヤーの考え方					
23~24	アニメーション作成 (No 4)	アニメーション作成のまとめ					
25~26	Web ページ作成 (No 1)	トップページを作成する					
27~28	Web ページ作成 (No 2)	画像素材を作成する					
29~30	Web ページ作成 (No 3)	自分の作成したアニメーションを Web ページに貼り付ける					
到達目標	1. 各種ソフトウェアの基本的操作方法がわかる 2. 自分でマルチメディア文書が作成できる 3. アニメーションを Web ページに組み込む方法がわかる						
評価方法	1. 出席点 (これを最重要視する) 2. 授業態度 3. 課題						
履修上の 注 意	事前の基礎知識等は必要としない。ただし、欠席をすると内容によっては落ちこぼれてしまうので、欠席はしないこと。授業中教員が説明をしているときには私語を慎むこと。作業中は友人同士教えあって作業をすること。一人で悩みこまないこと。分からないことは授業中に解決することが、進歩するためのポイントである。						
参考文献	授業中に適宜紹介する。						

授業科目	ゼミナール Seminar						
開講年次	1年通年	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	演 習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担 当 者	各担当教員						
テキスト	各ゼミで指示します						
教育目標 ね ら い	グループまたは個人で、特定の分野に関する研究を通じて、プレゼンテーションや表現の実践的な訓練を行い、客観的な視点の形成、論理的な説明力の向上などを旨とする。						
授業概要	グループまたは個人で、自分の興味のある分野について、その分野の専門とする教員の指導のもと、勉強を進めます。このゼミでは、教員や仲間とのディスカッション、資料の調査および報告などを通じて、コミュニケーション力をはじめとする様々な素養を高めていきます。この授業は、キャリア教育とも連携し、社会が求める人材へと導きます。なお、開講される個々のゼミに関する詳細な説明は別途、小冊子にて配付します。						
時間外学習	各ゼミ担当教員の指示に従うこと。						
到達目標	表現力、プレゼンテーション力をもって、卒業後も社会において活躍することのできる素養を身に付けることを目標とします。そのために、学外における研究発表などに参加することを目標とします。						
評価方法	出席状況、議論（ディスカッション）などへの参加状況、レポート、報告書などから総合的に評価します。						
履修上の 注 意	熱意を持って参加すること						
参考文献	各ゼミで指示します						

授業科目	美道 Bido						
開講年次	1 年前期	単位	1 単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応							
担当者	山野愛子ジェーン、青木 和子、佐藤 美奈子、杉浦 ゆり 他						
テキスト							
教育目標 ねらい	21 世紀の美容師には、高度な技術の実現のみならず、グローバルな感性やその表現力がますます求められてゆく。この授業では、YAMANO の「美道」を学び、その上で美容文化の現在と未来のあり方を様々な角度からアプローチし、美容師としての大切な資質を養う。						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義だけにとどまらず、実演や映像を取り入れた授業を通して美容の現場を知る。</li> <li>・課題テーマに即した内容のプレゼンテーションを行い、その課題レポートを提出する。</li> </ul>						
時間外学習	<ホームワーク> 授業時に発表された課題を、次回までにレポートにして必ず持参する。						
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1	イントロダクション	授業の心構え、美容師としての心構え					
2	美道	山野のトータル・ビューティ「美道 5 大原則」の理解					
3	初代山野愛子	山野愛子の美容の歴史を学び、美容師の使命を考える					
4	コミュニケーション・マナー	美容師に求められる大切な資質とは					
5	メイクアップとヘアメイク	ステージ上で効果的なメイクアップとヘアメイクの紹介 他					
6	ブライダル	欧米やアジアの結婚式の紹介					
7	ファッション・ビジネス	ファッション・ビジネスの舞台裏を学ぶ					
8	研究発表	レポート提出					
到達目標	山野の理念である美道 5 大原則を理解し、時代を担う美容師に必要な資質や国際感覚を身につける。						
評価方法	出席及び授業態度、課題、ファイナルレポート等で評価する。						
履修上の 注 意	欠席が総授業の 3 分の 1 を越えた場合は再履修とする。 提出すべきレポートが未提出の場合は再履修の対象となる。						
参考文献	授業に必要であれば提示。						

授業科目	海外研修旅行 Tour of Europe						
開講年次	1年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	演習
資格対応							
担当者	山野愛子ジェーン、大須賀 万里子						
テキスト	随時プリントを配布する						
教育目標 ねらい	美容芸術を中心とするファッションや美容の国際事情を学ぶことが授業の目的である。その為に適切な指導のもとに現地の状況を現場で体験する。						
授業概要	ファッション・美容・それらの関係施設・美術館・博物館等の見学研修や一流のアーティストによるヘアデザイン、メイク、コスチューム各部門のショーを見学研修する。また自由行動の時間を利用してのパリ、ロンドン最新風俗の観察等を行う、全員参加の必修科目である。						
時間外学習							
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
	説明会 事前準備	海外研修の説明会を行う パスポートの取り方、渡航における注意事項の説明など					
	説明会 事前準備						
	説明会 事前準備						
	東京（成田）発～ロンドン着	空路でロンドンへ					
	ロンドン	ロンドン市内見学、大英博物館見学 トニー&ガイビューティセミナー					
	ロンドン発～パリ着	空路でパリへ					
	パリ	ベルサイユ宮殿見学 ルーブル美術館見学、クリスマスパーティー（テーブルマナー実習） パリ市内見学、フランク・アボガドリ氏ビューティショー リド・ディナーショー					
	パリ発～東京（成田）着	空路で東京（成田）へ					
到達目標	海外の風俗や習慣、感性を学ぶことによって、国際的に活躍することができる美容師を目指す意識を高めることを目標とする。						
評価方法	説明会の出席、レポートにより評価する。						
履修上の 注 意	日程その他の都合により一部内容が変更する場合もある。 数回開催する説明会に必ず出席すること。 旅行参加中の着物着用を推奨します。						
参考文献	海外研修テキスト等配布する。						

授業科目	特別活動 Special Activities						
開講年次	1・2年通年	単位	1単位	必選	必修	授業形態	演習
資格対応							
担当者	大須賀 万里子						
テキスト	法定科目教科書、ワークブック等（日本理美容教育センター発行）						
教育目標 ねらい	各種授業ならびに行事によって教育し難い事柄について、特別に授業を設定して学生の修学に役立つことを目的とする。 美容芸術学科の学生に必要な、情操教育を行う。 美容師国家試験に合格するための実力養成を行う。						
授業概要	学生に対し、特に要する事柄がある場合、随時開講する。実施については、学生は常に掲示板等に注意して授業に備えること。 学外の特別講師による講演・授業、あるいは種々の学内行事で情操教育を行う。さらに美容師国家試験の筆記試験に対応する模擬試験、そしてその解説授業などを随時実施する。授業日は、実施予定が決定する毎に掲示等で告知する。従って、常に掲示板等に注意すること。						
時間外学習							
到達目標	大学生あるいは市民としての道徳心を養い、必要なマナーを身につける。 喫煙による健康被害などをよく認識できる能力を養う。また美容師国家試験の筆記試験に、全員が合格できる基礎を養う。						
評価方法	出席や受講態度により評価する。 実施される授業の出席状況や態度、および美容師国家試験の模擬試験成績を総合評価して成績とする。						
履修上の 注意	大学生として、あるいは成人として必要な事柄の指導であるから必ず出席すること。 短大生としての自覚を持ち受講する。 国家試験に合格するために、日常の学習を徹底すること。						
参考文献	その都度プリント等を用意し、配布する。						

授業科目	特別実習 Special Hairstyling Practice						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	由井貴美子、山本恵子、加藤宏美、平田昌義、武藤祐子 他						
テキスト	美容師実技試験実技課題『技術の解説及び図解』 理容師美容師試験研修センター編 2010						
教育目標 ねらい	美容師国家試験合格に向け、試験課題を完成させる。また、美容師として必要な衛生措置に関する知識を深める。						
授業概要	決定した国家試験課題を反復練習し、基礎的技術のレベルアップをはかるとともに、衛生上の取り扱いを徹底し、実践する。						
時間外学習							
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	国家試験第1課題	ワインディング or ローラーカールセッティング or オールウェーブセッティング					
3~4	国家試験第2課題	ヘアカッティング					
5~6	国家試験第1課題	ワインディング or ローラーカールセッティング or オールウェーブセッティング					
7~8	国家試験第2課題	ヘアカッティング					
9~10	国家試験第1課題	レベルチェック (ワインディング or ローラーカールセッティング or オールウェーブセッティング)					
11~12	国家試験第2課題	レベルチェック (ヘアカッティング)					
13~14	国家試験第1課題	ワインディング or ローラーカールセッティング or オールウェーブセッティング					
15~16	国家試験第2課題	ヘアカッティング					
17~18	国家試験第1課題	ワインディング or ローラーカールセッティング or オールウェーブセッティング					
19~20	国家試験第2課題	ヘアカッティング					
21~22	国家試験第1課題	ワインディング or ローラーカールセッティング or オールウェーブセッティング					
23~24	国家試験第2課題	ヘアカッティング					
25~26	国家試験第1課題	ワインディング or ローラーカールセッティング or オールウェーブセッティング					
27~28	国家試験第1課題	後期末試験(決定課題)					
29~30	国家試験第2課題	後期末試験 (ヘアカッティング)					
到達目標	美容師国家試験課題を習熟し、技術の向上をはかる。						
評価方法	出席状況 授業態度 レベルチェック 期末試験						
履修上の 注 意	欠席不可						
参考文献							

授業科目	日本語演習 I Japanese Communication I						
開講年次	1 年前期	単位	1 単位	必選	留学生必修	授業形態	演習
資格対応							
担当者	田仲 安則						
テキスト	『大学生のための日本語』 産能短期大学日本語教育研究室編 産能大学出版部 1990						
教育目標 ねらい	大学での勉強や研究を進めていくために必要な日本語の能力を養うことを目的とした授業をする。						
授業概要	情報の集め方、講義の聞き方、答案の書き方、レポートの仕方などと、そのときに必要な日本語の表現を学習する。						
時間外学習	授業内容をよく確認し復習する。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	オリエンテーション	日本語演習の授業、評価などのオリテとプレースメントテスト					
3~4	情報収集の方法 1	印刷物からの情報収集					
5~6	情報収集の方法 2	インタビューによる情報収集とその報告の方法					
7~8	面接の受け方	面接の受け方のスキル					
9~10	ノートの取り方 1	本を読んでノートを取る					
11~12	ノートを取り方 2	講義を聞いてノートを取る					
13~14	答案の書き方	必要な情報をその表現技術					
15~16	ブックレポート 1	ブックレポートのプロセス					
17~18	ブックレポート 2	新聞記事のレポート(1)					
19~20	ブックレポート 3	新聞記事のレポート(2)					
21~22	ブックレポート 4	新聞記事のレポート(3)					
23~24	ブックレポートの発表	文字レポートから口頭表現へ					
25~26	作文を書く 1	テーマと構成を考える					
27~28	作文を書く 2	指定時間内に指定文字の作文を書く					
29~30	総合学習・評価	キャンパスで必要な総合的な日本語能力のまとめ					
到達目標	大学での授業をよりよく理解し、消化・吸収していく十分な日本語能力を身につける						
評価方法	出席点 40% 平常点（毎回の授業の取り組み態度・提出物の精度など）30% 期末試験 30%						
履修上の 注 意	1回目のプレースメントテストは必ず受験すること						
参考文献	特に指定しない						

授業科目	日本語演習Ⅱ Japanese CommunicationⅡ						
開講年次	1年後期	単位	1単位	必選	留学生必修	授業形態	演習
資格対応							
担当者	田仲 安則						
テキスト	『中・上級者のための速読の日本語』 岡まゆみ 著 The Japan Times 1998 『日本語を学ぶ人たちのために日本語を楽しく読む本・中上級』 小出慶一 著 産能短期大学国際交流センター 1993 授業ではプリントを使用						
教育目標 ねらい	大学生活では教科書を読む、レポートを書くなど速く大量に読むことが要求され、そのための速読の仕方を学ぶ授業を行う。						
授業概要	必要な情報や知識だけ、素早くつかみ取れる能力、普通の日本人に近い自然な読解能力、速く大量に読める能力、予測や推測の力をつけることで読解力を伸ばす、日本語で読むことを楽しめるようになることに重点をおいた授業を行う。						
時間外学習	授業内容をよく確認し復習する。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	オリエンテーション	速読のスキルアップとは何か					
3~4	スキヤニングの技術	情報を取るスキルを磨く					
5~6	スキミングの技術	大意を取るスキルを磨く					
7~8	スキャンとスキムを総合練習	スキヤニングとスキミングを同時に使う技術を磨く					
9~10	必要な情報を取り出す	大量の文字情報の中から必要な情報を効率的に取り出すスキル学習					
11~12	タイトル・トピックス	タイトル・トピックスから内容の予測をして内容全体を把握する					
13~14	次に続く内容の予測	新聞の見出しから、その内容を予測する					
15~16	実践編 1	必要な情報を取り出す					
17~18	実践編 2	正誤問題					
19~20	実践編 3	タイトル・トピックス・主題・内容を考える					
21~22	日本語を楽しく読む 1	ネパールのビール					
23~24	日本語を楽しく読む 2	握手					
25~26	日本語を楽しく読む 3	分相応と分不相応					
27~28	日本語を楽しく読む 4	涙					
29~30	総合評価						
到達目標	大量の文字情報の上手な処理能力を養成し、大学の授業に必要な日本語能力を身につける						
評価方法	出席点 40% 平常点(毎回の授業の学習態度、提出物の制度など) 30% 期末試験 30%						
履修上の 注 意							
参考文献							

授業科目	日本語読解 Japanese Reading Comprehension						
開講年次	2年前期	単位	1単位	必選	留学生必修	授業形態	演習
資格対応							
担当者	木村 康一、趙 智順						
テキスト	プリントと資料の配布						
教育目標 ねらい	山野美容芸術短期大学では、卒業年次に美容師国家試験を受験し、合格できる実力をつけることを教育目標の一つとしており、留学生にもそれは課せられる。 この授業は、美容師国家試験・筆記試験に合格できる実力をつけることをひとつの手段として、日本語の読解力を高めることを狙いとしている。						
授業概要	美容師国家試験・筆記試験科目に合わせて、専門用語の意味を学び、また、試験の様式にそった日本語の微妙な言い回しを学ぶことによって、日本語の読解能力を高める授業とする。						
時間外学習							
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1	オリエンテーション	美容師国家試験の概要とこの授業の進め方について					
2	関係法規・制度と日本語	関係法規・制度で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
3	公衆衛生・環境衛生	公衆衛生・環境衛生で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
4	感染症	感染症で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
5	衛生管理技術	衛生管理技術で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
6	人体の構造と機能(1)	人体の構造と機能で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
7	人体の構造と機能(2)	人体の構造と機能で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
8	皮膚科学	皮膚科学で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
9	物理	物理で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
10	化学	化学で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
11	化粧品化学	化粧品化学で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
12	美容技術理論	美容技術理論で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
13	美容技術理論	美容技術理論で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
14	美容技術理論	美容技術理論で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
15	試験						
到達目標	美容師国家試験・筆記試験において合格できる程度の日本語読解力を身につける						
評価方法	出席点 20%、期末試験 60%、授業態度 20%の総合評価 特に授業中のお化粧品、私語（お喋り）は厳禁。						
履修上の 注 意							
参考文献							